

第2次天理市地域公共交通総合連携計画の中間評価と見直し

平成29年3月
天理市

目次	
第1章 第2次天理市地域公共交通総合連携計画の概要	1
1. 計画見直しの背景と目的	1
2. 第2次天理市地域公共交通総合連携計画の概要	2
(1) 基本的な方針	2
(2) 計画区域	2
(3) 計画の目標	2
(4) 数値目標	3
(5) 計画期間	3
(6) 本計画に位置づける事業	3
第2章 第2次天理市地域公共交通総合連携計画の中間評価	4
1. 地域公共交通総合連携計画の取組状況	4
2. 数値目標の達成状況	8
資料1 公共交通の満足度や要改善点等に関する調査の結果	14
1. 調査の概要	14
2. 調査結果の概要	18
資料2 いちょう号西部線利用者に対する調査の結果	46
1. 調査の概要	46
2. 調査結果の概要	48
第3章 第2次天理市地域公共交通総合連携計画の見直し	56
1. 地域公共交通総合連携計画の取組課題	56
2. 事業スケジュール	58

第1章 第2次天理市地域公共交通総合連携計画の概要（平成26年4月策定）

1. 計画見直しの背景と目的

天理市では、「誰もが安心してらせる街」や「にぎわい、つながる街空間」を目指して、高齢者の日常生活サポートの充実や、天理駅前の活性化、市民の満足度と利便性の向上を最優先としたインフラ整備等の施策展開を図っているところである。

こうした施策を推進する上で不可欠となるのが、地域住民の自立した日常生活及び健康づくり・学習活動・ボランティア活動等の社会生活を確保するための利便性の高い地域公共交通網である。活力ある都市活動の実現や交通に係る環境への負荷の低減を図るためにも、地域公共交通の活性化及び再生の推進は、本市にとって引き続き極めて重要な課題であると考えられる。

一方で、急激な少子高齢化の進展や、モータリゼーションの進行に伴い、天理市地域公共交通の維持活性化の困難さは次第に増すものと考えられる。

このような認識のもとで、天理市では「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」（平成19年10月1日施行）の枠組みを活用して、平成26年4月に「第2次天理市地域公共交通総合連携計画」を策定し、本市地域公共交通の維持・改善に向けた計画的な取り組みを講じてきた。

同計画の計画期間は5年間であり、最終年度が平成30年度である。そこで、中間年にあたる平成28年度に、これまでの計画内容を振り返りつつ実施状況を中間評価し、平成29年度以降の事業内容を見直す必要がある。

2. 第2次天理市地域公共交通総合連携計画の概要（平成26年4月策定）

（1）基本的な方針

次の事項を基本的な方針とし、地域公共交通の活性化及び再生に向けた計画的な取り組みを推進している。

- ・市全域に広がった地域公共交通ネットワーク全体の活性化及び再生と、地域特性に応じた需要に見合った効率的な維持確保を推進する。
- ・これにより、公共交通空白地帯の解消、高齢者・障がい者・免許非保有者など交通弱者の利便性の向上、病院・スーパー・公共施設などへのアクセスの向上、自家用車から公共交通機関への転換の促進、既存公共交通機関への乗り継ぎ利便の向上など、高品質な公共交通を軸とした住みやすいまちづくり・訪れやすいまちづくりを実現し、地域公共交通の利用増と市民の満足度向上を目指す。
- ・地域住民、公共交通事業者、関係行政機関等の関係者が一体となり、総合的に検討しながら、地域公共交通の活性化及び再生に総力で取り組み、適切に見直しながら、よりよい状況を実現する。

（2）計画区域

計画の対象区域は、天理市全域である。

（3）計画の目標

計画の目標として、次の5項目を掲げている。

- ① 公共交通空白地帯の解消とその状況の継続
- ② 交通弱者の利便性の向上と社会参加の促進
- ③ 中心市街地、公共施設へのアクセスの向上
- ④ 交通由来の環境負荷の低減
- ⑤ 市の公共交通幹線である鉄道網の利便性向上と利用促進

(4) 数値目標

公共交通空白地帯の解消に向けて引き続き取り組むとともに、鉄道や路線バスを含めた天理市地域公共交通全体の品質向上と効率的な運営に取り組み、公共交通に対する市民の満足度向上と利用増を目指すため、数値目標を次のように設定している。

表 1-1. 第 2 次天理市地域公共交通総合連携計画の数値目標

	計画策定時の状況	目標
1 市内における公共交通空白地帯の解消割合 (市内全町に対する解消した町の割合) (公共交通空白地帯とは、駅・バス停・乗降所から概ね半径 700m 圏外とする)	73% (平成 25 年 11 月)	100% (本計画満了年度)
2 公共交通に対する市民の満足度 (意識調査で 100 点満点中 60 点以上をつけた回答者の割合)	JR 桜井線 36% 近鉄天理線 75% 市内路線バス 25% (平成 25 年 9 月) (注)	JR 桜井線 40% 近鉄天理線 80% 市内路線バス 30% (本計画満了年度)
3 コミュニティバス・デマンド型乗合タクシーの利用者数 (1 日当たり)	いちょう号 38.87 人 ぎんなん号 8.58 人 (平成 24 年度)	いちょう号 50 人 ぎんなん号 20 人 (本計画満了年度)

(注) 計画策定時点では JR 桜井線 30%、近鉄天理線 70%、市内路線バス 21%となっていたが、これらの数値は 60 点超 (60 点を含まない) をつけた回答者の割合を示すものであったため、この表では 60 点以上 (60 点を含む) をつけた回答者の割合を算出し直して表示している。

(5) 計画期間

計画の期間は 5 年 (平成 26 年度～平成 30 年度) である。

(6) 本計画に位置づける事業

目標達成に向け、次の 5 つの事業を推進することとしている。

各事業の内容と取組状況については後述する。

- ① 天理市コミュニティバス運行事業
- ② 天理市デマンド型乗合タクシー運行事業
- ③ 公共交通の広報・利用促進活動
- ④ 鉄道・路線バスの満足度向上に向けた施策展開
- ⑤ 主要駅とその周辺エリアの面的なバリアフリー化

第2章 第2次天理市地域公共交通総合連携計画の中間評価

1. 地域公共交通総合連携計画の取組状況

第2次天理市地域公共交通総合連携計画においては、5つの事業について、実施主体と具体的な推進方向が示されている。それらの平成28年度までの取組状況と中間評価は以下の通りである。

表 2-1. 事業の取組状況と中間評価

事業名	事業内容	取組状況と中間評価
① 天理市コミュニティバス運行事業 ■実施主体 : 天理市地域公共交通活性化協議会	公共交通空白地帯の解消等を目的として平成21年から運行されている天理市コミュニティバス「いちょう号」の運行を継続し、利用者の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・いちょう号の運行は継続され、西部線の利用者は平成25年度が9733人(1日平均39.59人)、26年度が10079人(1日平均41.48人)、27年度が9939人(1日平均40.90人)と推移し、28年度(4月から1月まで)には9387人(1日平均46.71人)と大きく伸びた。 ・平成27年12月よりコミュニティバス苜原線の実証運行を開始し、平成28年4月より本格運行に移行した。これにより東部山間地区の公共交通の充実が図られた。平成28年度(4月から1月まで)の利用者数は1655人(1日平均5.41人)である。 <p>【評価：実施中で、成果が上がっている】</p>
	市民意識調査より、積み残しの発生を指摘する意見や、増便、経路の見直しなどを求める意見が複数あることから、利用実態の調査・分析を綿密に行い、地域住民や運行受託事業者との協働のもとで、適切に見直しつつサービスの改善を図っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年11月に、車椅子での利用を可能とするノンステップ型車両を導入し、併せて要望の高いICカード対応とした。 ・平成28年度に市民意識調査といちょう号乗り込み調査を行って、いちょう号の満足度や課題を把握し、改善策を検討中である。 ・いちょう号西部線の結崎駅へ乗り入れの検討とあわせて、庵治町、嘉幡町、二階堂地区のサービス改善策を検討中である。 <p>【評価：実施中で、成果が上がっている】</p>
	土日祝日の運行の妥当性や、隣接市町との連携による利便性向上・経費削減の可能性について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・土日祝日の運行の妥当性の検討については、進んでいない。 <p>【評価：未実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接市町との連携については、川西町との協議と、利用者アンケート調査を実施し、いちょう号西部線を結崎駅に乗り入れる方向での検討を進めている。 <p>【評価：実施中】</p>
	いちょう号の付加価値を高めるため、多方面での活用を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・車両の外部スピーカーで防犯放送を行う等付加価値を高める取り組みが継続されている。 ・平成27年11月17日に「天理市コミュニティバス車両広告掲載要綱」を施行し、車内・車外の有料広告を随時募集している。 ・さらに新たな取り組みの検討が求められる。 <p>【評価：実施中で、成果が上がっている】</p>

表 2-1. 事業の取組状況と中間評価（続）

事業名	事業内容	取組状況と中間評価
<p>② 天理市 デマンド型 乗合タクシー 運行事業</p> <p>■実施主体 ：天理市地 域公共交通 活性化協議 会</p>	<p>公共交通空白地帯の解消等を目的として平成 24 年から実証運行している天理市デマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」を本格運行に転じ、東西南北各エリアにおいて運行区域を拡大し、適切に見直しつつ、公共交通空白地帯の解消を図る。</p>	<p>・平成 24 年 4 月から平成 26 年 3 月まで乗降所 25 か所で実証運行を行った。その結果を踏まえ、平成 26 年 4 月より乗降所を 46 か所に増設して本格運行を開始した。</p> <p>・平成 27 年 4 月より、同一エリア内に所在するの医療機関向けの利用を可能として欲しい旨の多数の要望に応えるため、同施設に「同地区限定の市中心部」としての位置付けで乗降所を設置することで、「同一エリア内での移動不可」というエリア運行の問題点を解消した。</p> <p>【評価：実施中で、成果が上がっている】</p>
	<p>地域住民や運行受託事業者との協働のもとで利用促進活動を実施する。</p>	<p>・利用者数が平成 24 年度の 2101 人から、25 年度に 2933 人から、26 年度に 3432 人、27 年度に 3845 人と着実に増加している。28 年度（4 月から 1 月まで）も前年度同期比で 2 % の増加となっている。</p> <p>・1 日あたり利用者数は、平成 24 年度の 8.58 人から、25 年度に 12.02 人、26 年度に 14.07 人、27 年度に 15.82 人、28 年度（4 月から 1 月まで）に 16.08 人と着実に増加している。</p> <p>【評価：実施中で、成果が上がっている】</p>
	<p>隣接市町との連携による利便性向上・経費削減の可能性や、ぎんなん号によるバス路線の代替可能性について検討する。</p>	<p>・いちょう号菅原線の運行と、いちょう号西部線の結崎駅乗り入れの検討が進められているが、これらはぎんなん号の活用可能性を含めて検討した結果である。</p> <p>【評価：実施中】</p>
	<p>ぎんなん号の付加価値を高めるために、多方面での活用を検討する。</p>	<p>・検討が進んでいない。</p> <p>【評価：未実施】</p>

表 2-1. 事業の取組状況と中間評価（続）

事業名	事業内容	取組状況と中間評価
③ 公共交通の広報・利用促進活動 ■実施主体：天理市、各交通事業者、市民	市の広報や SNS、ウェブサイト等を活用した利用体験共有型の広報を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年 12 月の「天理市広報 町から町へ」の 1 ページを割いて、いちょう号苜原線の実証運行と、いちょう号西部線へのノンステップバス導入や IC カード対応に関する広報を行った。 ・利用体験共有型の広報は未実施である。 【評価：一部未実施】
	市内の各交通機関が連携した広報活動や利用促進活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・未実施である。 【評価：未実施】
	パンフレット・乗り案内・総合時刻表等の作成に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・いちょう号、ぎんなん号のパンフレットを配布した。 ・乗り案内・総合時刻表等の作成は未実施である。 【評価：一部未実施】
	地域住民・通勤通学者・学校・各種事業所等を対象としたモビリティ・マネジメントや、公共交通利用促進のためのシンポジウム等に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年 6 月から 9 月にかけて、路線バス天理都祁線（苜原系統）沿線住民を対象に、モビリティ・マネジメントの一手法である TFP（トラベル・フィードバック・プログラム）が実施された。具体的には、ひとりひとりにカスタマイズした乗り継ぎ時刻表や啓発冊子等を配布し、沿線住民の交通に対する意識や交通行動にどのような変化が生じるかを分析し、懇切丁寧な交通情報の提供が沿線住民の交通に対する意識に大きな変化を与えること、沿線住民を利用に導くための条件の整備とモビリティ・マネジメントの同時並行的展開が必要となることが明らかとなった。 ・上記系統沿線以外でのモビリティ・マネジメントは行われていない。 ・シンポジウム等は未実施である。 【評価：一部未実施】

表 2-1. 事業の取組状況と中間評価（続）

事業名	事業内容	取組状況と中間評価
<p>④ 鉄道・路線バスの満足度向上に向けた施策展開</p> <p>■実施主体：天理市、各交通事業者</p>	<p>各種関係機関及び鉄道・路線バス事業者と満足度向上に向けた、以下の「満足度向上に向けて想定される事業」の実施について協議を行う。</p> <p>満足度向上に向けて想定される事業</p> <p>鉄道利便性向上 JR・近鉄の乗り継ぎ利便性向上 利用促進のための情報提供 増便・直通・乗り心地改善策等の検討 駅設備の改善 自家用車・自転車・バス等との連携強化</p> <p>路線バス利便性向上 利用促進のための情報提供 バス停設備の改善 定時性確保・増便等の検討 広域バス路線の維持方策や代替手段の検討</p> <p>鉄道・路線バスの魅力づくり 駅の魅力づくり 列車の魅力づくり 路線バスの魅力づくり</p>	<p>・天理市地域公共交通活性化協議会を各年度2～3回開催し、協議を行っている。開催日は平成26年5月27日、11月5日、平成27年3月26日、10月5日、平成28年2月19日、6月27日、平成29年2月22日である。</p> <p>・検討がなされていない。</p> <p>【評価：未実施】</p> <p>・奈良交通の天理都祁線（苅原系統）については、平成27年12月より日中の空白時間帯にコミュニティバスを走らせ、いちょう号西部線や鉄道との接続を重視したダイヤとして、買い物・通院の利便性向上や、石上神宮、桃尾の滝や龍王山（龍王山城址）等の観光資源へのアクセス向上を図った。</p> <p>・以上の他は検討がなされていない。</p> <p>【評価：一部未実施】</p> <p>・検討がなされていない。</p> <p>【評価：未実施】</p>
<p>⑤ 主要駅とその周辺の面的なバリアフリー化</p> <p>■実施主体：天理市、各交通事業者</p>	<p>1日3000人以上の乗降客数を有する4つの鉄道駅（近鉄天理、JR天理、近鉄二階堂、近鉄前栽の各駅）において、駅周辺のバリアフリー化を各種関係機関及び鉄道事業者に働きかける。</p>	<p>・近鉄天理駅およびJR天理駅周辺では、平成29年春のグランドオープンを目指し、点字ブロックやスロープ、階段手すりなどのユニバーサルデザインを備えた新しい駅前広場の整備が進められている。</p> <p>・JR天理駅はバリアフリー化済みである。</p> <p>・近鉄天理駅では、内方線等の施工を検討している。</p> <p>・近鉄二階堂駅についてはスロープ等の施工を検討している。</p> <p>・近鉄前栽駅についてはエレベータの設計の実施等を検討している。</p> <p>【評価：実施中】</p>

2. 数値目標の達成状況

(1) 達成状況の一覧

第2次天理市地域公共交通総合連携計画では、3項目の数値目標が掲げられている。それらの平成28年度までの達成状況は次の通りである。次ページ以降に、各項目の現状に関する資料を掲載する。

「市内における公共交通空白地帯の解消割合」と、「コミュニティバス・デマンド型乗合タクシーの利用者数（1日当たり）」については、目標達成に向けて順調に推移している。

「公共交通に対する市民の満足度」については、目標の未達成が懸念される。鉄道・路線バスの満足度向上に向けて、鉄道の利便性向上や鉄道・路線バスの魅力づくりに注力する必要がある。

表2-2. 数値目標の達成状況

	計画策定時の状況	現状	目標	達成状況	
1	市内における公共交通空白地帯の解消割合 (市内全町に対する解消した町の割合) (公共交通空白地帯とは、駅・バス停・乗降所から概ね半径700m圏外とする)	73% (平成25年11月)	96% (平成29年3月)	100% (本計画満了年度の平成30年度末)	○
2	公共交通に対する市民の満足度 (意識調査で100点満点中60点以上をつけた回答者の割合)	JR桜井線 36% 近鉄天理線 75% 市内路線バス 25% (平成25年9月) (注)	JR桜井線 38.3% 近鉄天理線 70.0% 市内路線バス 21.8% (平成29年3月)	JR桜井線 40% 近鉄天理線 80% 市内路線バス 30% (本計画満了年度の平成30年度末)	○ × ×
3	コミュニティバス・デマンド型乗合タクシーの利用者数 (1日当たり)	いちょう号 38.87人 ぎんなん号 8.58人 (平成24年度)	いちょう号 西部線 46.71人 (参考: 菅原線 5.41人) (平成28年4月～平成29年1月) ぎんなん号 16.08人 (平成28年4月～平成29年1月)	いちょう号 西部線 50人 (本計画満了年度の平成30年度末) ぎんなん号 20人 (本計画満了年度の平成30年度末)	いちょう号 西部線 ○ 菅原線 評価対象外 ぎんなん号 ○

(注) 計画策定時点ではJR桜井線30%、近鉄天理線70%、市内路線バス21%となっていたが、これらの数値は60点超(60点を含まない)をつけた回答者の割合を示すものであったため、この表では60点以上(60点を含む)をつけた回答者の割合を算出し直して表示している。

(2) 市内における公共交通空白地帯の解消割合

・天理市では「第2次地域公共交通総合連携計画」のもとで、デマンド方乗合タクシー「ぎんなん号」の乗降所の増設と本格運行や、コミュニティバス「いちよう号」苜原線の開設等の施策が展開されてきた。

・平成29年3月現在の公共交通空白地帯解消割合は96%（78町中75町）であり、25年11月現在の73%（78町中57町）から大きく向上している（図2-1～図2-4）。

・残された公共交通空白地帯は表2-3の通りである。

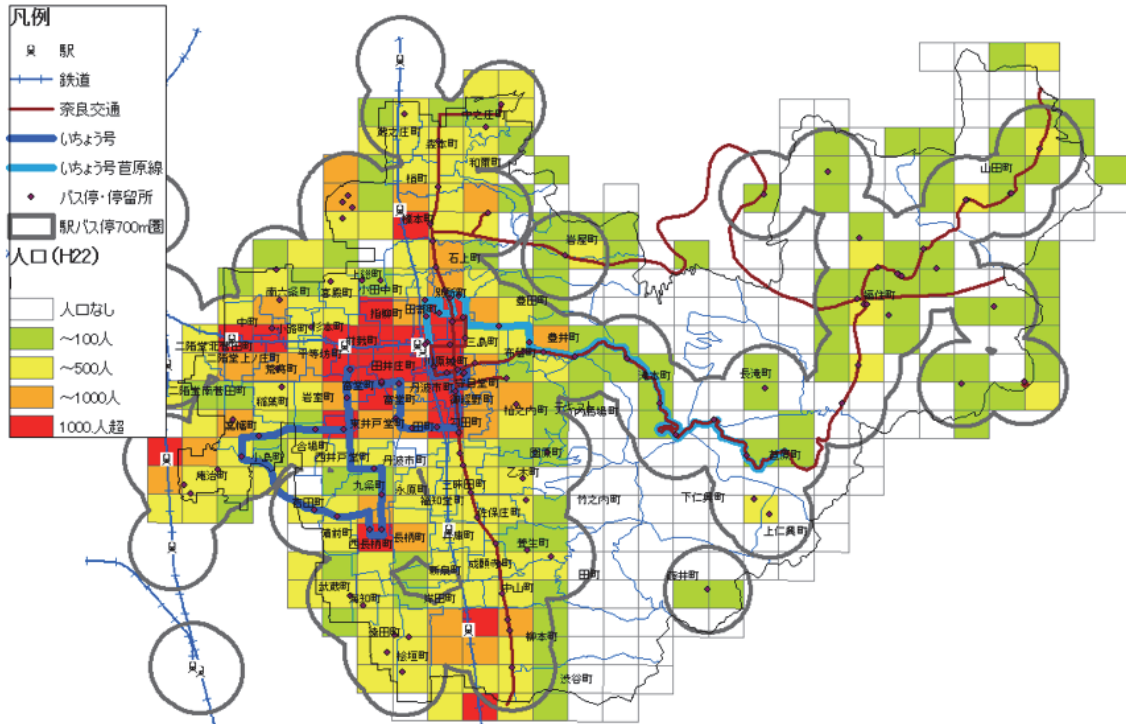


図 2-1. 天理市の公共交通カバー状況（平成 29 年 3 月現在）

表 2-3. 残された公共交通空白地帯（平成 29 年 3 月現在）

北エリア	岩屋町の東部
南エリア	岸田町の一部、新泉町の一部

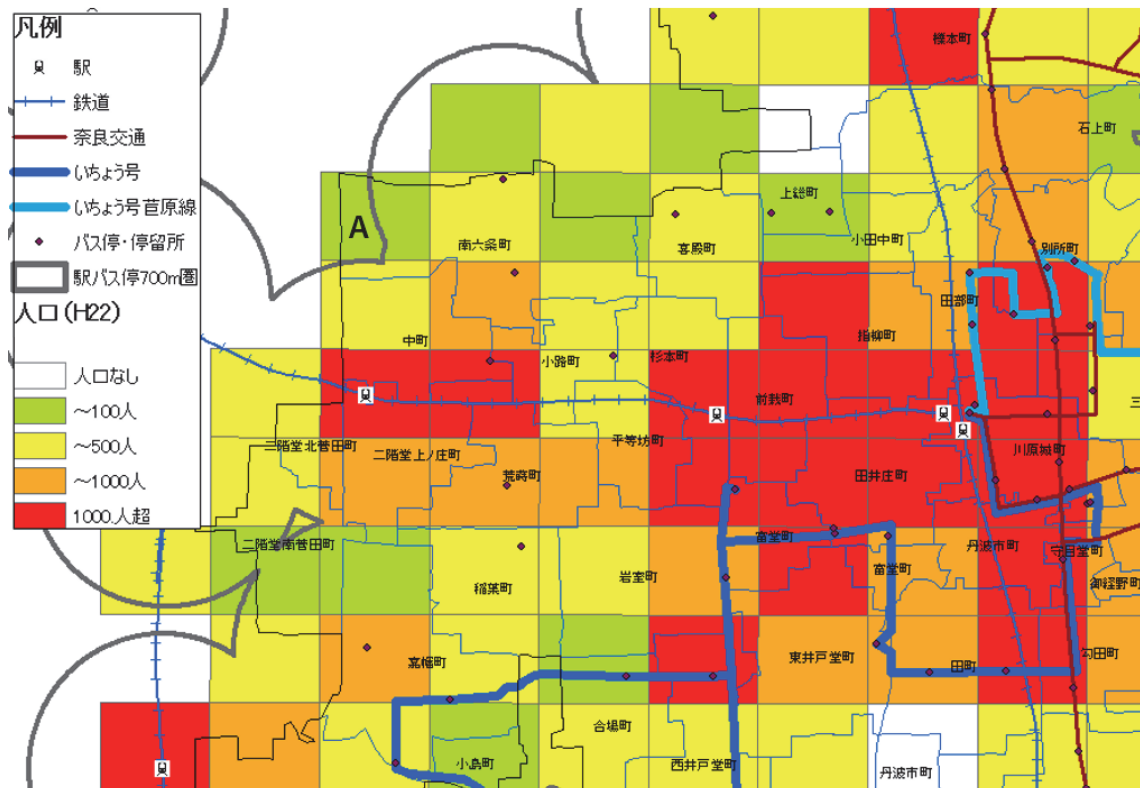
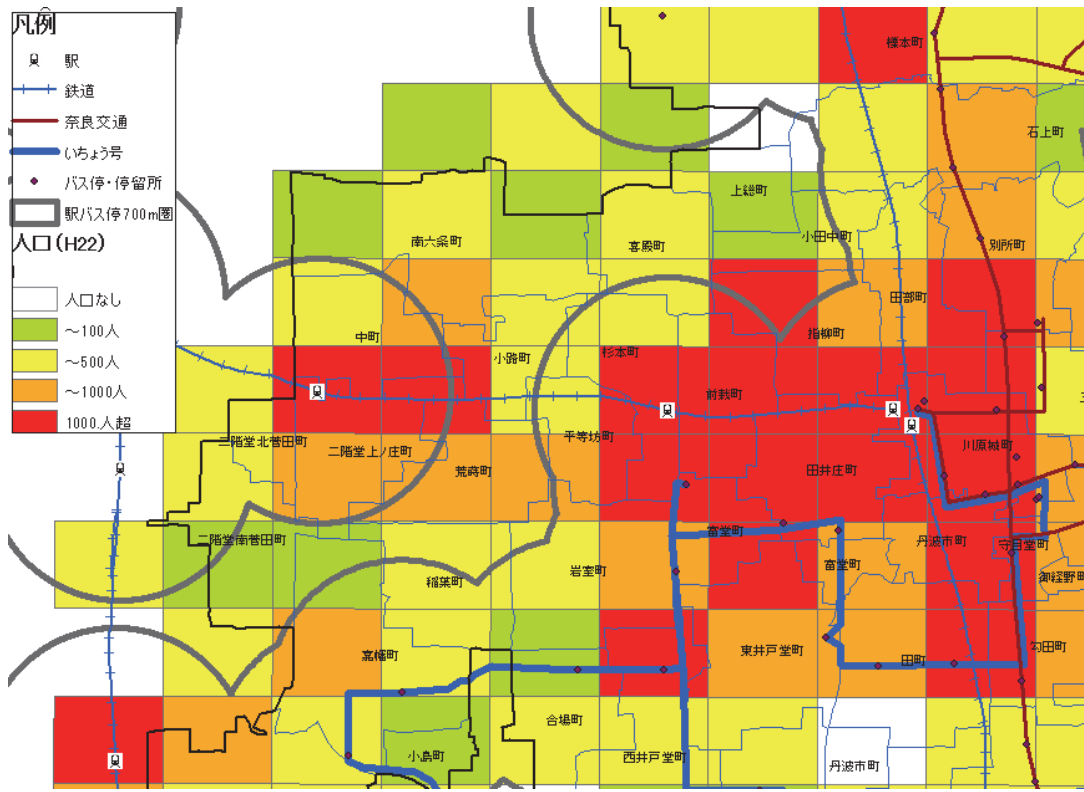


図 2-2. 天理市西部の公共交通カバー状況の変化

(上の図：平成 25 年 11 月現在 下の図：平成 29 年 3 月現在)

注：下の図の A は物流施設や工場、ホテル等からなる区域で、人家はない。

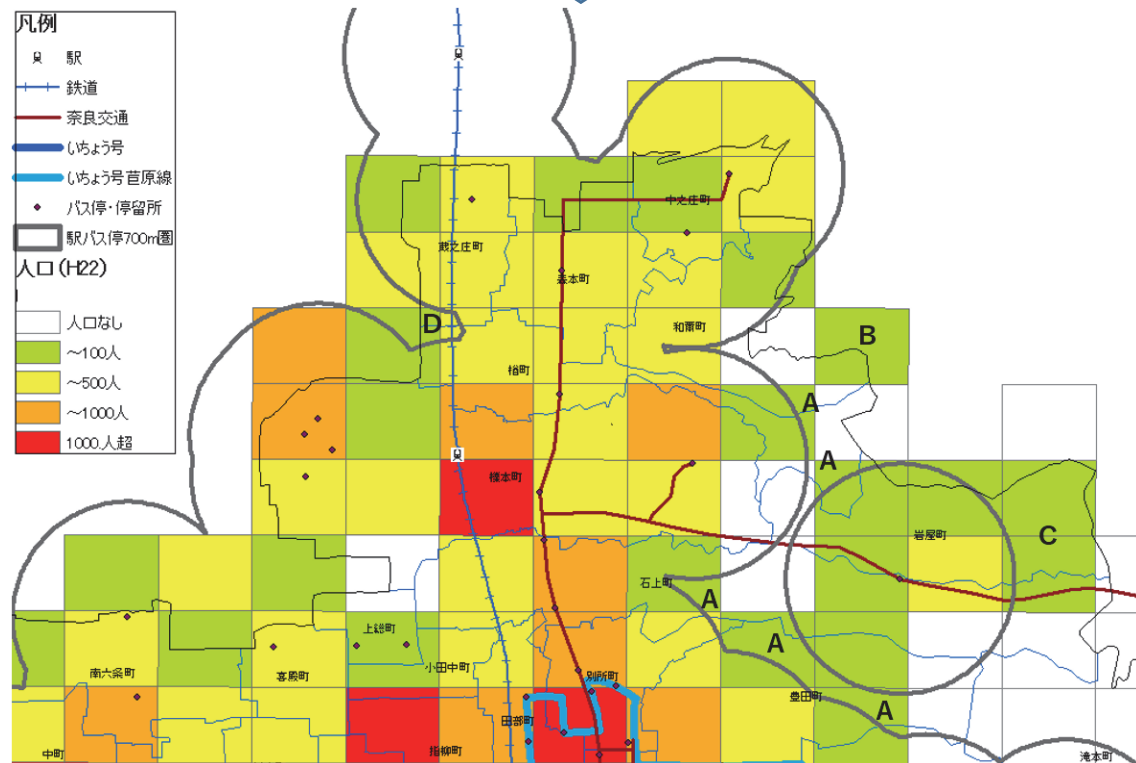
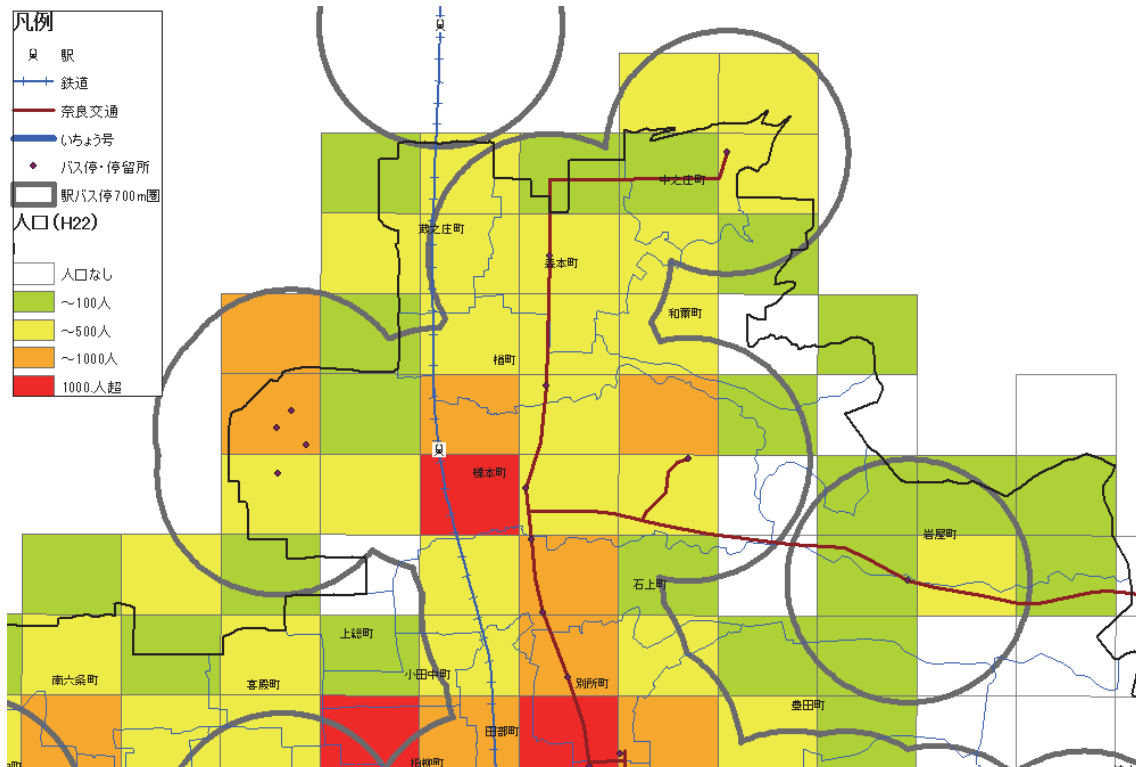


図 2-3. 天理市北部の公共交通カバー状況の変化

(上の図：平成 25 年 11 月現在 下の図：平成 29 年 3 月現在)

注：下の図の A は山林や田畑等で無人であり、B は奈良市高樋町の人口を反映したものである。C には天理市域内に人家がある。D には数軒の人家があるが、大和郡山市のコミュニティバスの石川停留所が近接している。

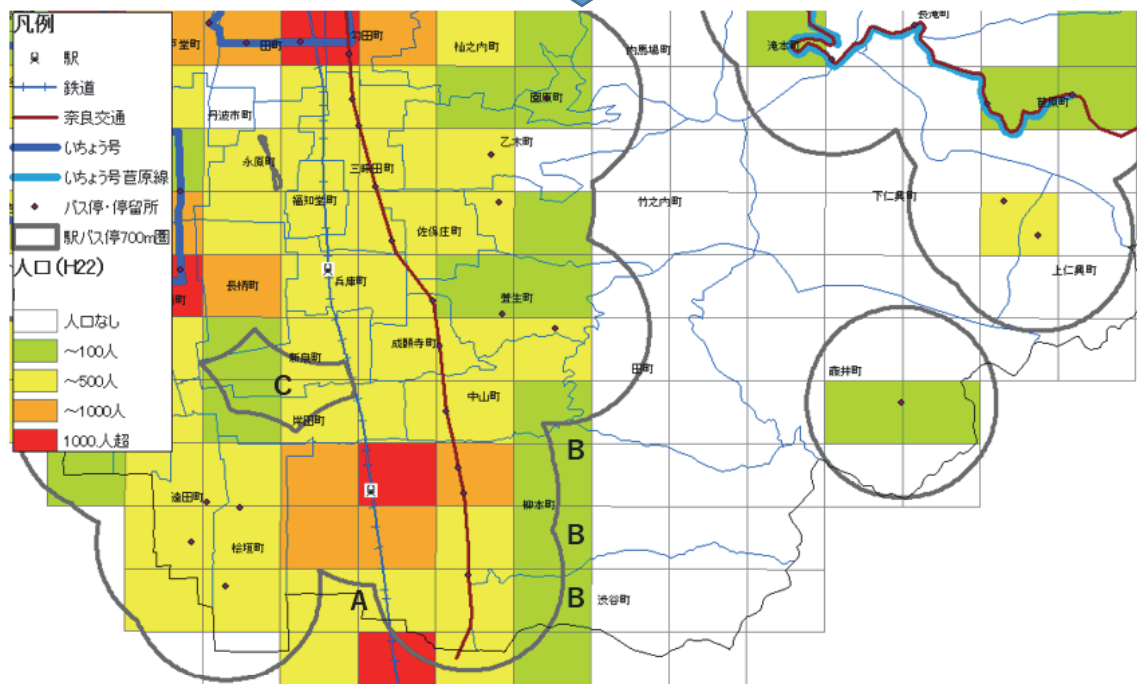
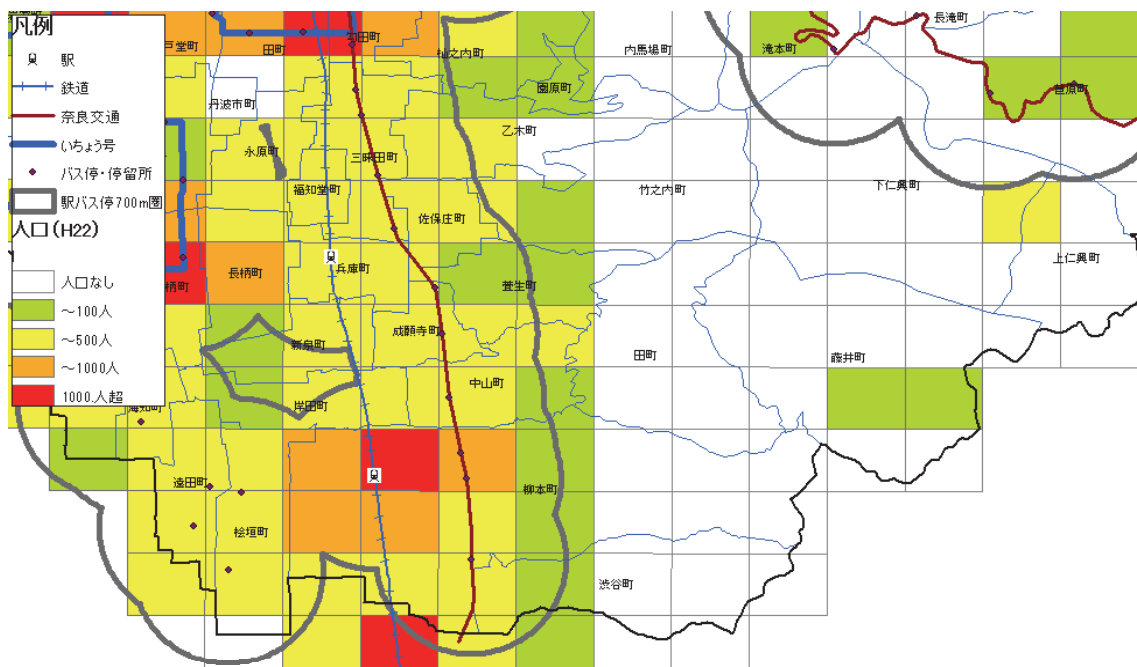


図 2-4. 天理市東部・南部の公共交通カバー状況の変化

(上の図：平成 25 年 11 月現在 下の図：平成 29 年 3 月現在)

注：下の図の A は田畑、B は山林で、人家はない。C はおおむね田畑であるが、数軒の人家がある。

(3) 公共交通に対する市民の満足度

次ページ以下に示す資料 1 公共交通の満足度や要改善点等に関する調査結果 および資料 2 いちょう号乗り込みアンケート調査の結果 を参照のこと。

(4) コミュニティバス・デマンド型乗合タクシーの利用者数

コミュニティバスいちょう号（西部線）とデマンド型乗合タクシーぎんなん号の利用状況は次のように推移している。いちょう号（苜原線）については、利用者数に関する数値目標の対象外であるため、省略する。

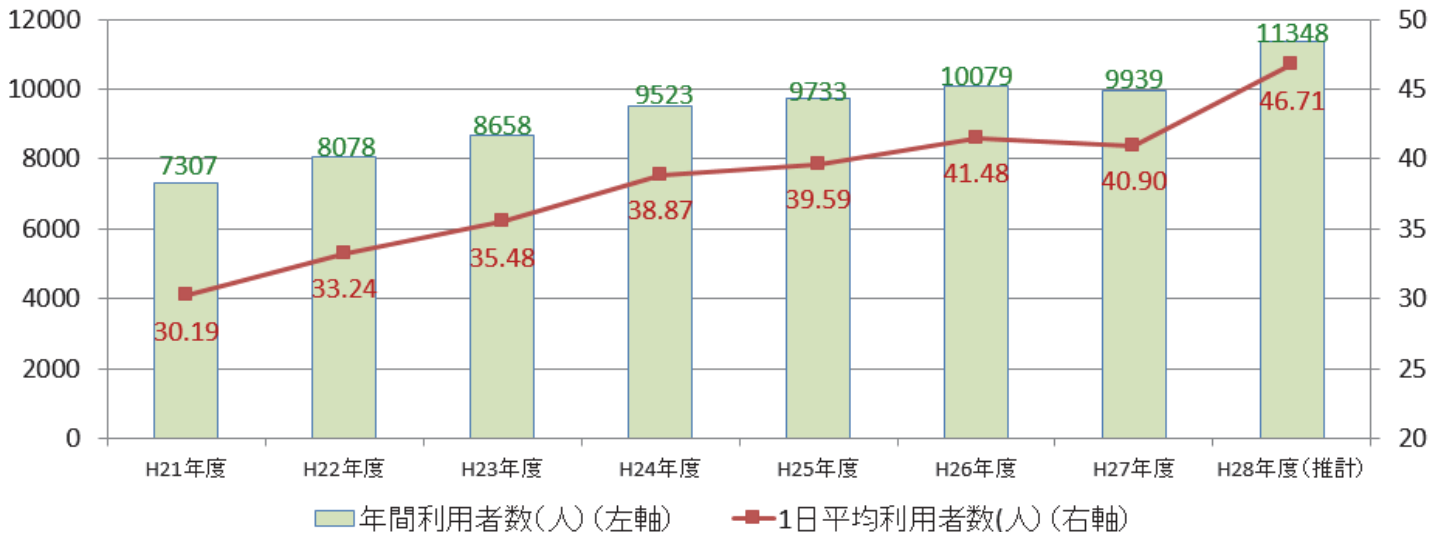


図 2-5. いちょう号（西部線）の利用状況の推移

注 平成 28 年度の数値は、4 月～1 月の実績値から、同年度（4 月～3 月）の推計値を求めたものである。

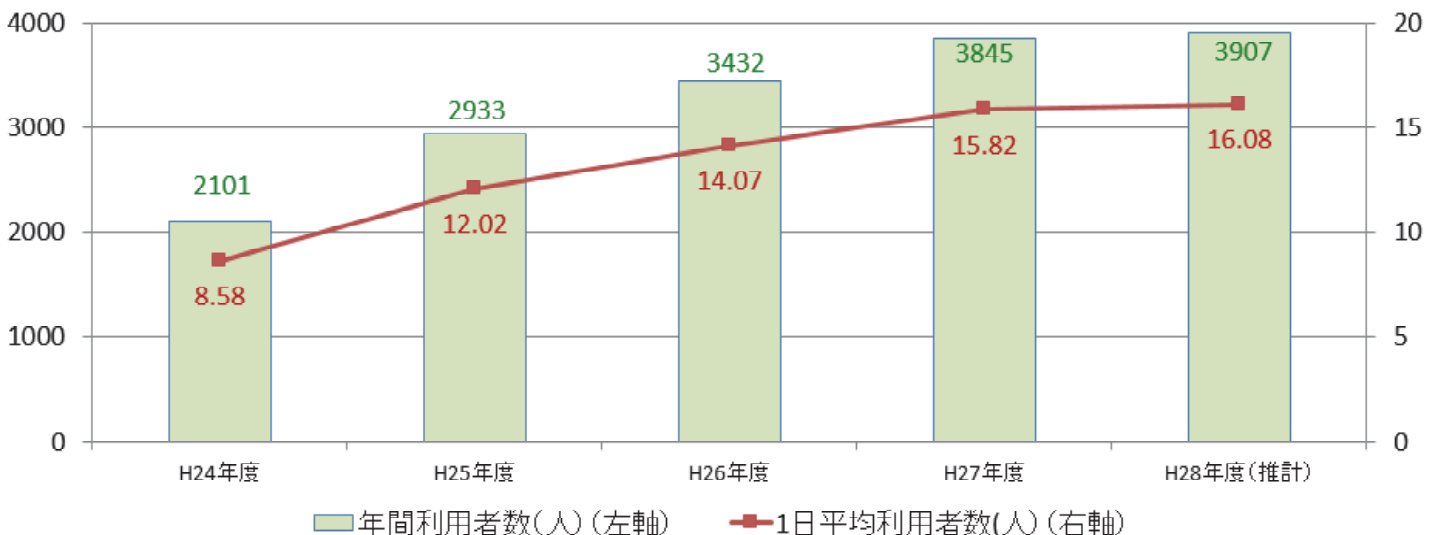


図 2-6. ぎんなん号の利用状況の推移

注 平成 28 年度の数値は、4 月～1 月の実績値から、同年度（4 月～3 月）の推計値を求めたものである。

資料1 公共交通の満足度や要改善点等に関する調査の結果

1. 調査の概要

市民の公共交通の利用状況や意見・要望を把握するために、市民意識調査を実施した。

(1) 配布対象と配布方法

・15歳以上の天理市民の中から住民基本台帳によって無作為に抽出した3000人に、メール便で配布し、料金着払いの郵送で回収した。

(2) 実施時期

・平成29年2月下旬～3月上旬

(3) 回収数と回収率

- ・回収数 1186 票
- ・回収率 39.5 %

(4) アンケート調査票

・次ページ以降に示す。

公共交通の満足度や要改善点等に関する調査

天理市地域公共交通活性化協議会

公共交通機関は市民の日常生活になくてはならないものであり、地域経済の活性化のためにも必要不可欠であることから、より安心安全で利便性の高い移動手段としていくことが重要です。

このため、天理市では住民代表、交通事業者、行政関係者などで組織する「地域公共交通活性化協議会」を設置して、公共交通を軸とした住民にとって住みやすいまちづくりの実現や、需要に見合った効果的な生活交通の確保に取り組んでいます。

今回ご協力をお願いいたしますアンケート調査は、市民の皆様の公共交通の利用状況やご意見・ご要望についてお尋ねし、よりよい姿の実現に向けた資料として活用させていただくために実施するものです。

お手数ですが、以上の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、調査結果は全て統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。

※ご記入にあたって

- ①この調査は、市内にお住まいの15歳以上の方の中から3,000人を無作為に抽出して実施するものです。
- ②宛名の方またはご家族の方がご回答ください。
- ③同封のアンケート調査票に直接ご記入ください。
- ④ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、平成29年3月3日までにご投函ください。(切手は不要です)

問合せ先

天理市市長公室総合政策課

電話：0743-63-1001（内線461）

この調査の回収と分析は、和歌山大学経済学部辻本研究室に委託して実施します。

問 16. 市内の路線バスのご利用状況はいかがですか？(1つに○)

- | | | |
|-----------------|---------------|---------------|
| 1. 利用したことがない | 2. ほぼ毎日利用 | 3. 週に2～3回程度利用 |
| 4. 週に1日程度利用 | 5. 2週間に1日程度利用 | 6. 月に1日程度利用 |
| 7. 2～3ヶ月に1日程度利用 | 8. 半年に1日程度利用 | 9. 年に1日程度利用 |

問 17. 路線バスの満足度やお困りのことについて教えてください

路線バスの満足度は、100点満点中 点

路線バスの利用でお困りのことはありますか？(複数回答可)

- | | | |
|-----------------|----------------------|---------------------|
| 1. 自宅の近くにバス停がない | 2. 目的地までの路線がない | 3. バス停に雨よけやベンチがない |
| 4. 運行本数が少ない | 5. 所要時間がかかる | 6. 料金が低い |
| 7. 身体が不自由 | 8. 段差がある | 9. バスの情報が少ない |
| 10. 始発時刻が遅い | 11. 最終時刻が早い | 12. 乗務員のサービスやマナーが悪い |
| 13. その他 | <input type="text"/> | |

問 18. コミュニティバス(いちょう号)のご利用状況はいかがですか？(1つに○)

- | | | |
|-----------------|---------------|---------------|
| 1. 利用したことがない | 2. ほぼ毎日利用 | 3. 週に2～3回程度利用 |
| 4. 週に1日程度利用 | 5. 2週間に1日程度利用 | 6. 月に1日程度利用 |
| 7. 2～3ヶ月に1日程度利用 | 8. 半年に1日程度利用 | 9. 年に1日程度利用 |

問 19. コミュニティバス(いちょう号)の満足度やお困りのことについて教えてください

いちょう号の満足度は100点満点中 点

いちょう号の利用でお困りのことはありますか？(複数回答可)

- | | | |
|---------------------|-----------------------|---------------------|
| 1. 自宅の近くにバス停がない | 2. 目的地までの路線がない | 3. バス停に雨よけやベンチがない |
| 4. 運行本数が少ない | 5. 所要時間がかかる | 6. 料金が低い |
| 7. 身体が不自由 | 8. 段差がある | 9. バスの情報が少ない |
| 10. 始発時刻が遅い | 11. 最終時刻が早い | 12. 乗務員のサービスやマナーが悪い |
| 13. 西部線が土日祝に運行していない | 14. 隣接する市町のバスと接続していない | |
| 15. その他 | <input type="text"/> | |

問 20. 乗合タクシー(ぎんなん号)のご利用状況はいかがですか？(1つに○)

- | | | |
|-----------------|---------------|---------------|
| 1. 利用したことがない | 2. ほぼ毎日利用 | 3. 週に2～3回程度利用 |
| 4. 週に1日程度利用 | 5. 2週間に1日程度利用 | 6. 月に1日程度利用 |
| 7. 2～3ヶ月に1日程度利用 | 8. 半年に1日程度利用 | 9. 年に1日程度利用 |

問 21. 乗合タクシー(ぎんなん号)の満足度やお困りのことについて教えてください

ぎんなん号の満足度は100点満点中 点

ぎんなん号の利用でお困りのことはありますか？(複数回答可)

- | | | |
|-----------------|-----------------------|---------------------|
| 1. 自宅の近くに乗降所がない | 2. 目的地までの路線がない | 3. 乗降所に雨よけやベンチがない |
| 4. 運行本数が少ない | 5. 所要時間がかかる | 6. 料金が低い |
| 7. 身体が不自由 | 8. 予約方法が不便 | 9. ぎんなん号の情報が少ない |
| 10. 始発時刻が遅い | 11. 最終時刻が早い | 12. 乗務員のサービスやマナーが悪い |
| 13. 土日祝の運行がない | 14. 隣接する市町のバスと接続していない | |
| 15. その他 | <input type="text"/> | |

アンケートは以上です。3月3日までにご投函ください。ご協力ありがとうございました。

2. 調査結果の概要

- ・ここでは、公共交通の満足度や要改善点等に関する調査結果の概要を整理する。

(1) 回答者のプロフィール

- ・性別では、男性が43.6%、女性が56.4%である。

問1 性別 (n=1182)

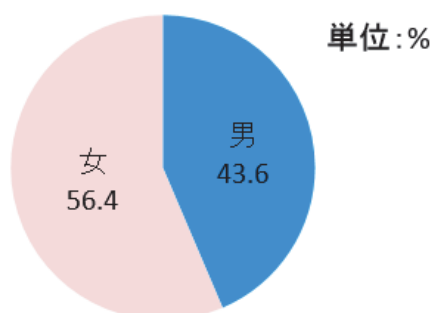


図1. 回答者の性別

- ・回答者の年齢層は次の通りであり、60歳代以上が半数強を占めている。

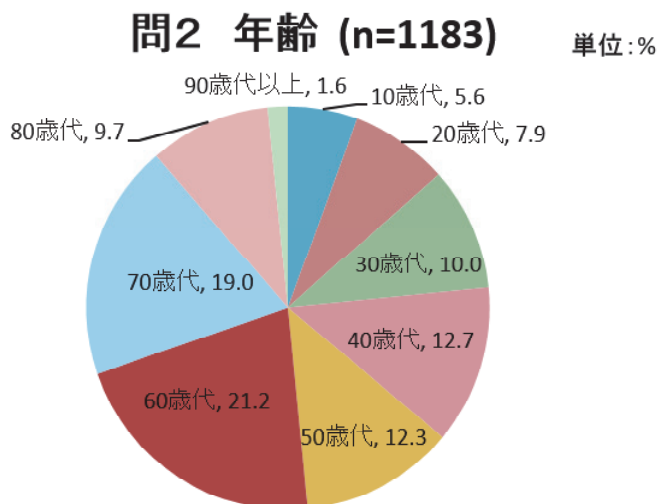


図2. 回答者の年齢

・回答者の職業は次の通りであり、無職、会社員・公務員、専業主婦、パート・アルバイト、自営業・農業の順となっている。

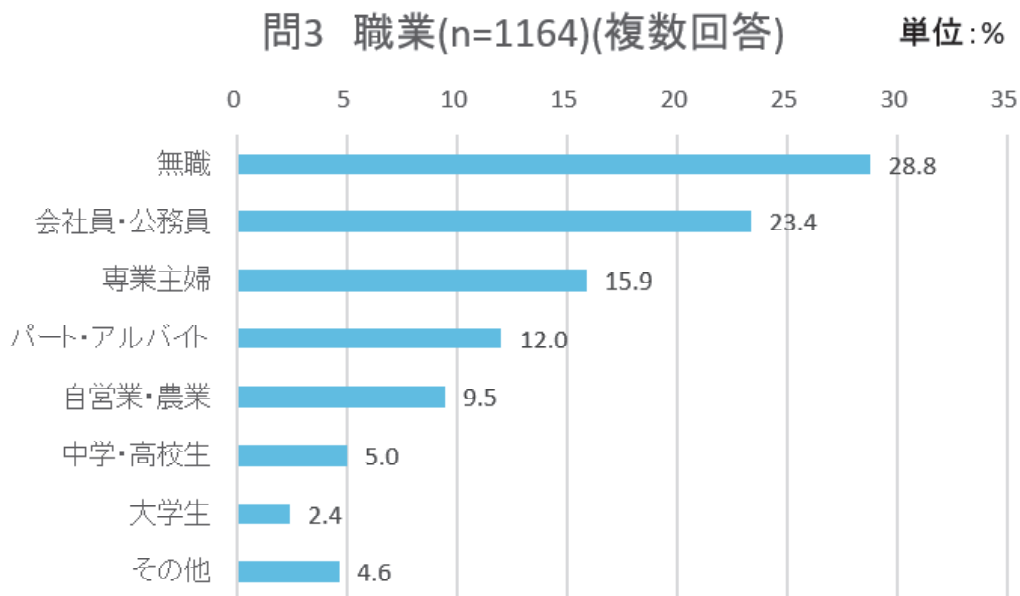


図3. 回答者の職業

・回答者の住まいを小学校区別に整理すると、次のようになる。

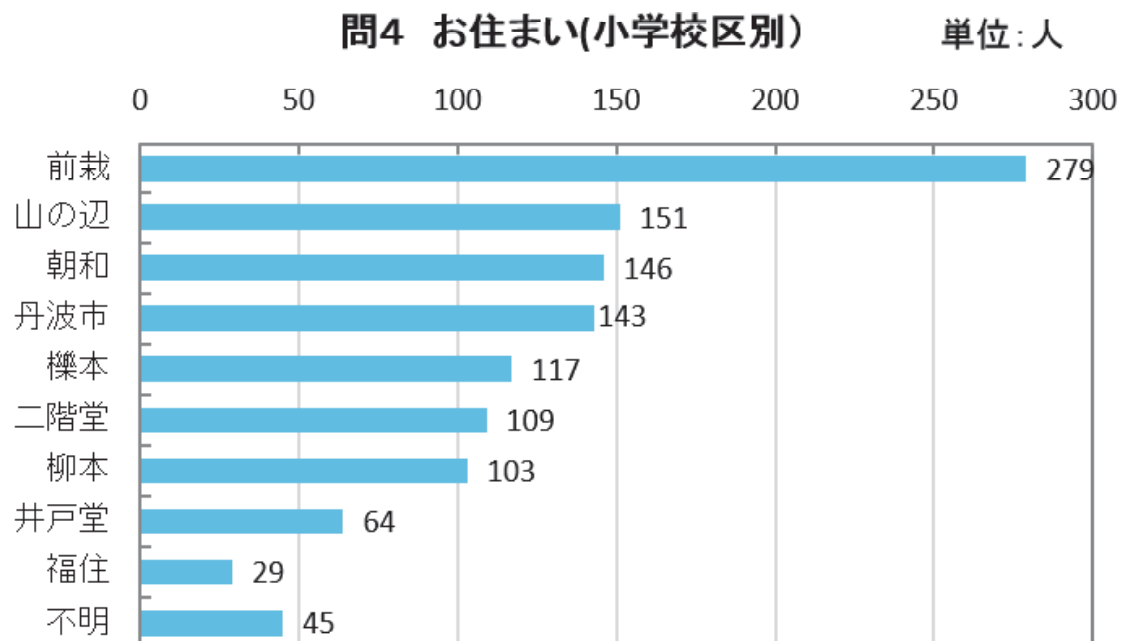


図4. 回答者の住まい (小学校区別)

(2) 運転免許と自動車の保有状況

・運転免許の保有状況は次の通りであり、男性に比べて女性の保有率が低くなっている。
この傾向は、平成25年9月の調査時点と同様である。

問5 運転免許証の保有

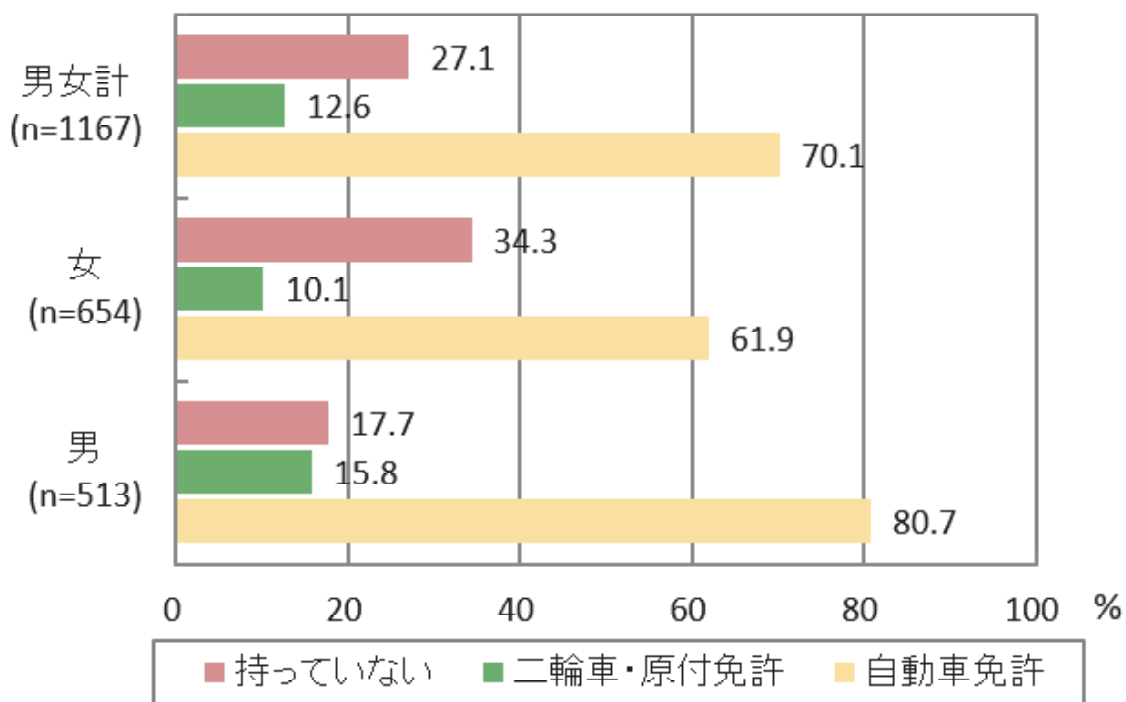


図5. 運転免許証の保有状況（複数回答）

・自動車の保有状況を性別・年齢別にみると、30-50歳代では男女の保有率に大差はないが、60歳以上では男性の保有率に比べて女性の保有率が格段に低い状況となっている。
この傾向も平成25年9月の調査時点と同様である。

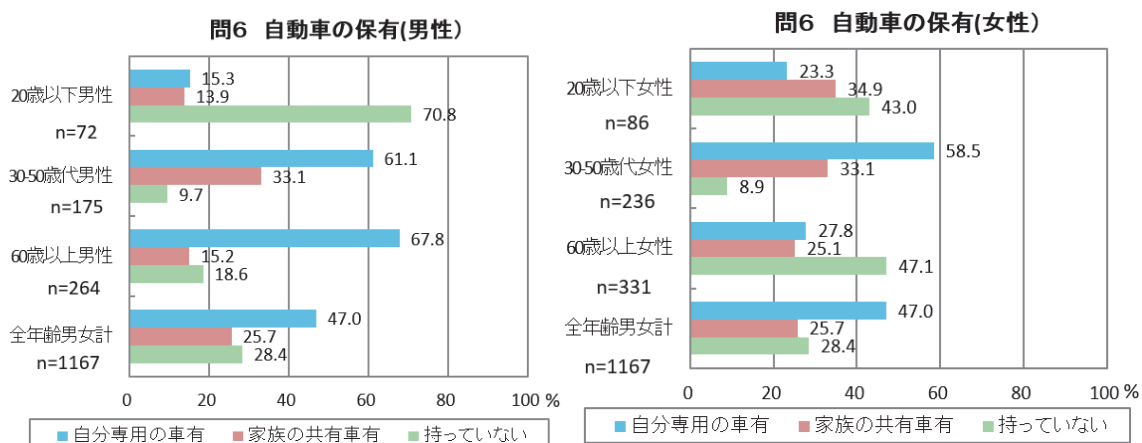


図6. 自動車の保有状況（男女別）

(3) 駅・バス停名称の認知状況と所要時間

- ・最寄り駅やバス停の名称を知っている人は 14.7 %にとどまる。平成 25 年 9 月の調査時点では 17 %であったことから、最寄り駅・バス停の認知状況は改善していないものと考えられる。
- ・最寄り駅やバス停までの所要時間は、5 分以内が 27.5 %、10 分以内が 29.4 %だが、30 分以上も 1.8 %存在する。この結果は、平成 25 年 9 月の調査時点とほぼ同じである。

問7 最寄り駅やバス停をご存じですか (n=993)

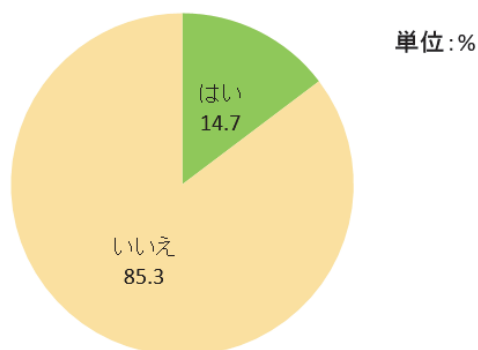


図 7. 最寄り駅・バス停名の認知状況

問7 最寄り駅やバス停までの所要時間(n=796)

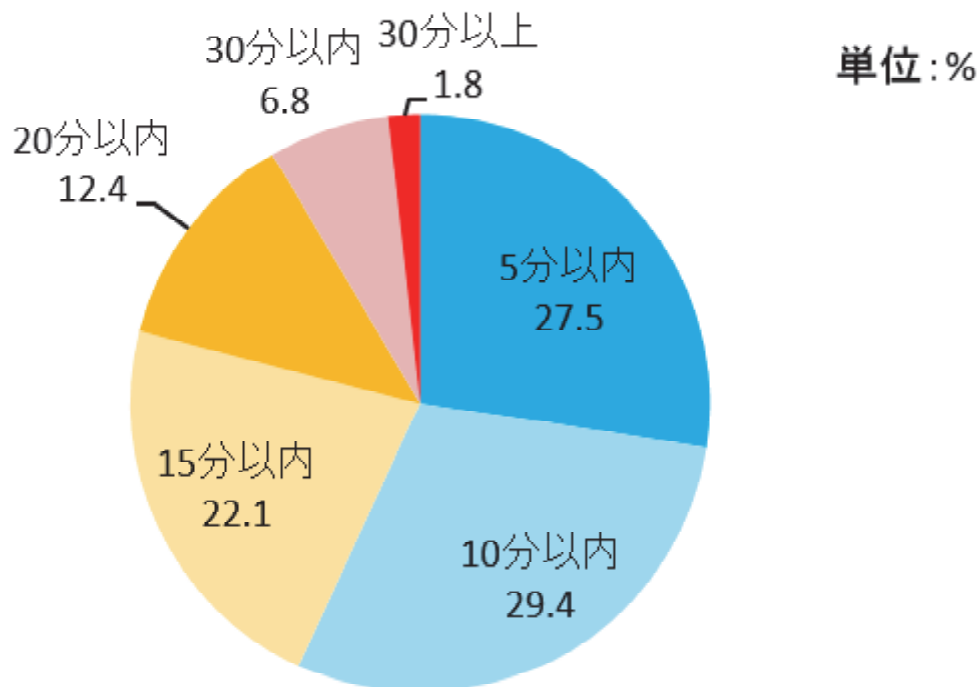


図 8. 最寄り駅やバス停までの所要時間

(4) 市民の外出頻度と外出目的

- ・外出頻度を運転免許の保有・非保有別に見ると、週に4～5回以上の外出をしている人は、免許保有者で約82%、免許非保有者で約48%となっている。平成25年9月の結果と比較すると、免許保有者の数値はほぼ変わっていないが、免許非保有者の数値は約66%から約48%へと低下している。
- ・免許非保有者のうち、約24%が週に1回程度かそれ未満の外出状況である。この結果は、平成25年9月の約17%よりも上昇している。

問8 外出頻度

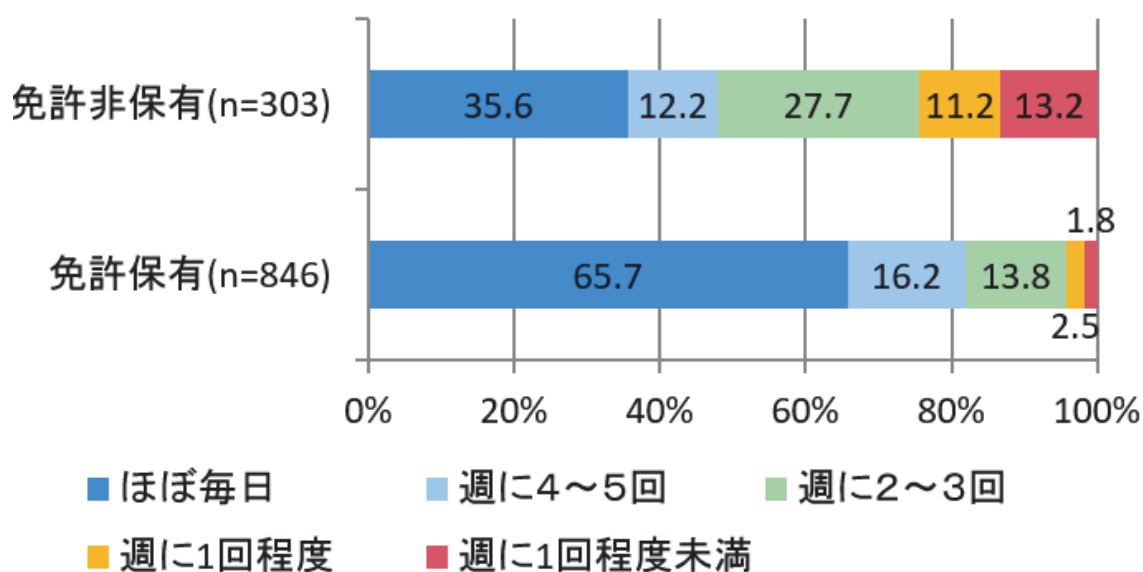
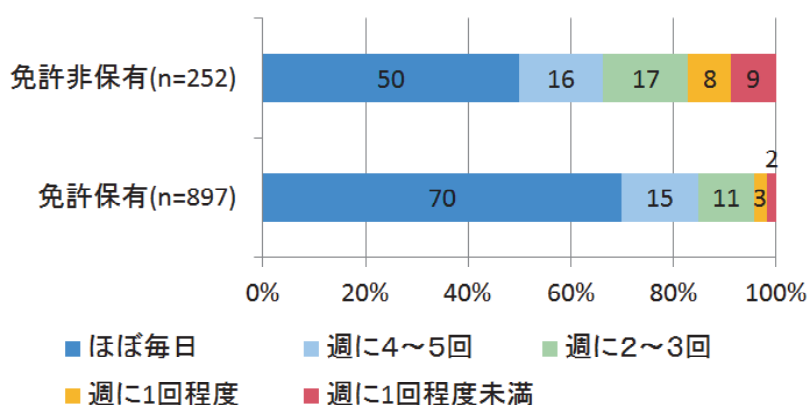


図9. 外出頻度

問8 外出頻度



参考図. 平成25年9月時点の外出頻度

・外出目的は買い物、通勤、通院、娯楽・レクリエーションの順である。

問9 外出目的 (n=1170)

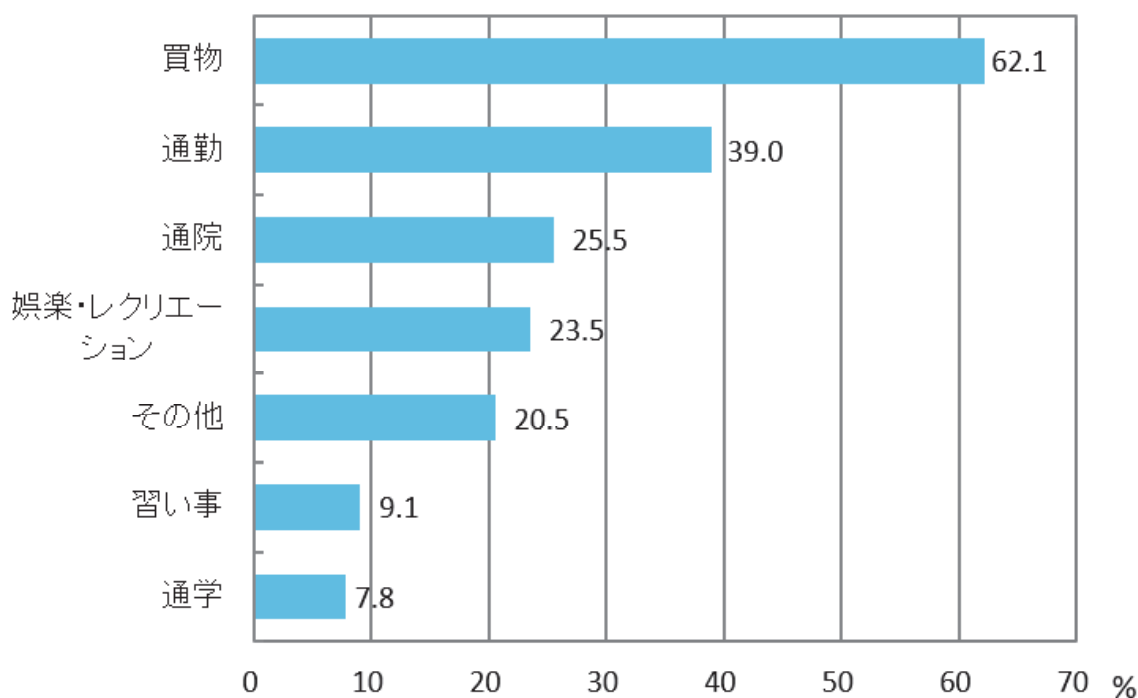


図 10. 外出目的 (複数回答)

(5) 外出頻度に対する満足状況

・外出頻度を増やしたいかどうかを運転免許の保有・非保有別に見ると、「はい」は免許保有者で 19 %、免許非保有者で 35 %である。平成 25 年 9 月の結果と比べ、免許非保有者の「はい」が 27 %から 35 %に上昇している。免許保有者の数値はほぼ不変である。

問10 外出頻度を増やしたいですか

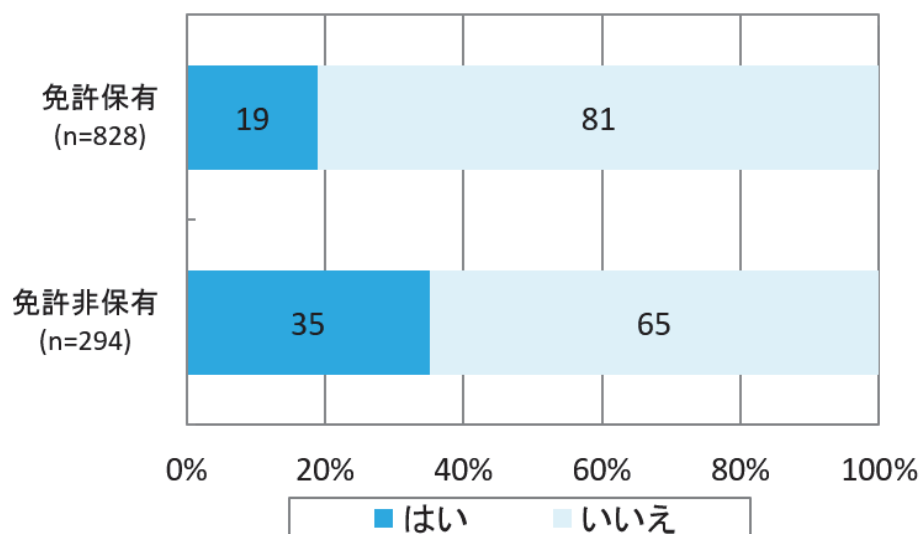


図 11. 外出頻度に対する満足状況 (免許保有の有無別)

(6) 思うように外出できない理由

・思うように外出できない理由を運転免許の保有・非保有別に見ると、免許保有者では「駅やバス停、乗降所が遠い」「用事がない」「乗換が不便」「その他」の順、免許非保有者では「駅やバス停、乗降所が遠い」「用事がない」「体調が良くない」「その他」の順となっている。この傾向は平成 25 年 9 月の調査結果とおおむね同じである。

・思うように外出できない理由を年齢別に見ると、全年齢計では「駅やバス停、乗降所が遠い」「交通費が高い」「乗換が不便」の順であり、60 歳代以上では「駅やバス停、乗降所が遠い」「自動車で送迎してくれる人がいない」「対象が良くない」の順となっている。この傾向は平成 25 年 9 月の調査結果とおおむね同じである。

問11 外出できない理由(免許保有の有無別)

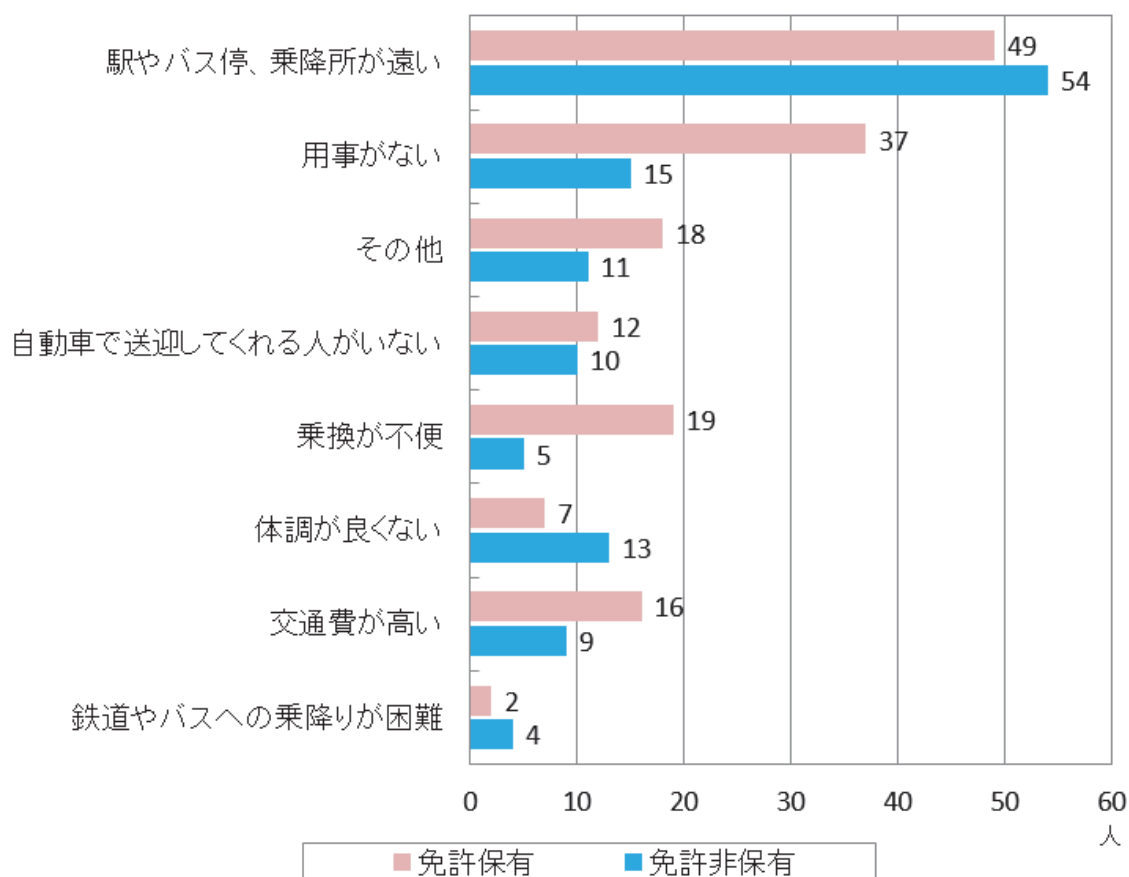


図 12. 外出できない理由 (免許保有の有無別) (複数回答)

問11 外出できない理由(年齢別)

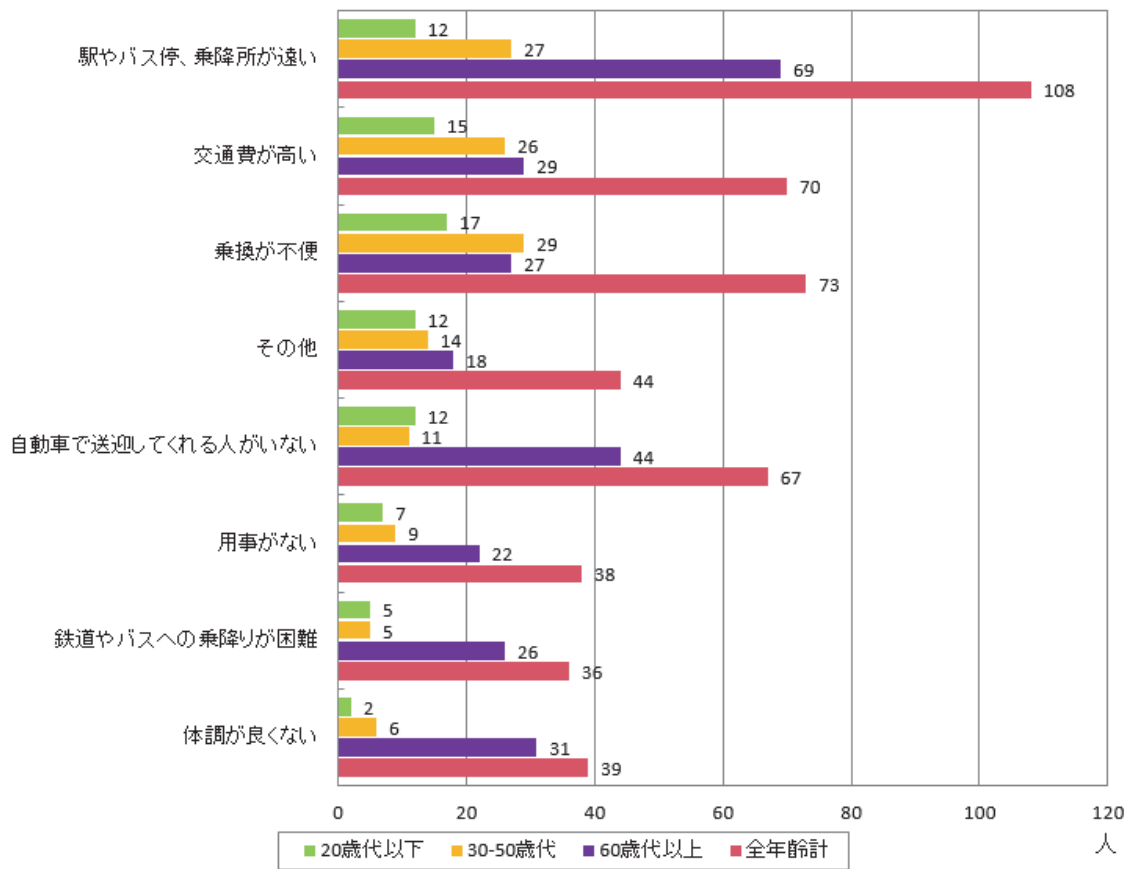


図 13. 外出できない理由 (年齢別) (複数回答)

(7) JR 桜井線の利用状況と満足度

・JR 桜井線の利用状況は、「利用したことがない」「年に1日程度利用」が30.0%、24.4%で1位、2位となっている。「週に1日程度」以上利用する人は5%程度である。平成25年9月の調査では「利用したことがない」「年に1日程度利用」がそれぞれ25%ずつで最多であり、「週に1日程度」以上利用する人は10%程度であったが、このような状況に改善が見られているとは言えない。

問12 JR桜井線の利用状況 (n=1157)

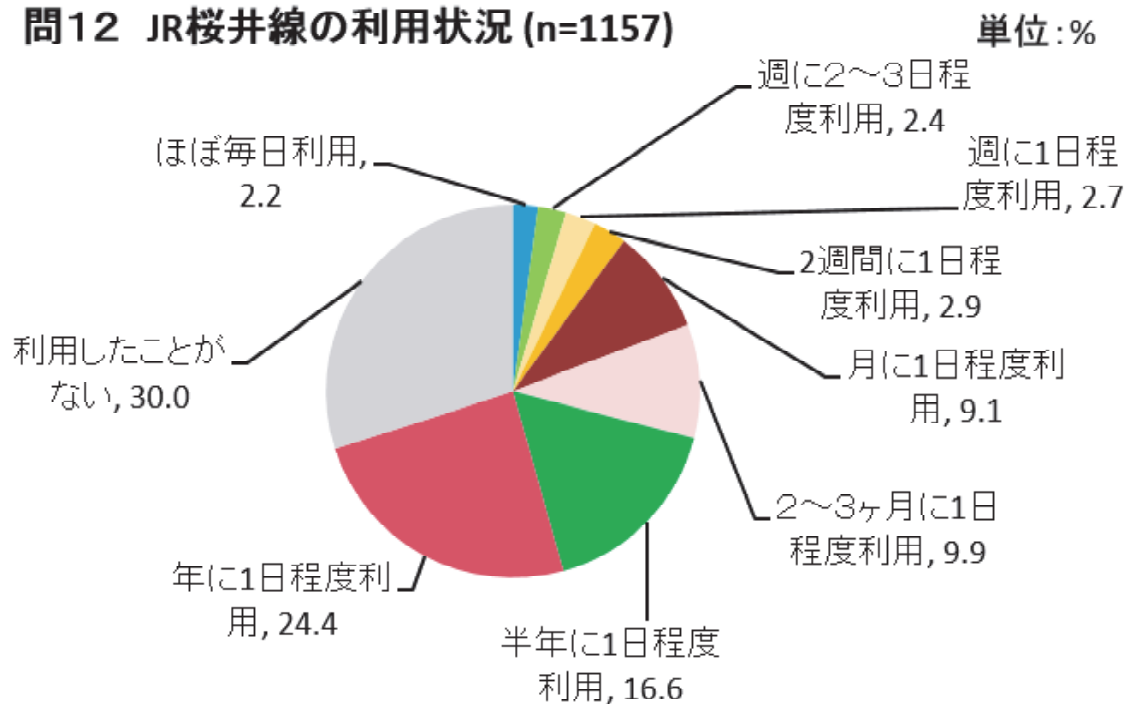


図 14. JR 桜井線の利用状況

・JR 桜井線に対する満足度を見ると、回答者全体のうち 60 点以上をつけた人の割合は 38.3 %である。平成 25 年 9 月の調査では 36 %であったので、満足度は横ばいないし若干上昇している。

・高頻度利用層の満足度を見ると、60 点以上をつけた人の割合は「ほぼ毎日利用」で 26.0 %（平成 25 年 9 月の調査では 36 %）、「週に 2～3 日程度利用」では 46.4 %（同 42 %）、「週に 1 日程度利用」では 60.7 %（同 62 %）である。平成 25 年 9 月の調査結果と比べて、ほぼ毎日利用する人の満足度が下がっている。

問13 現状のJR桜井線の満足度

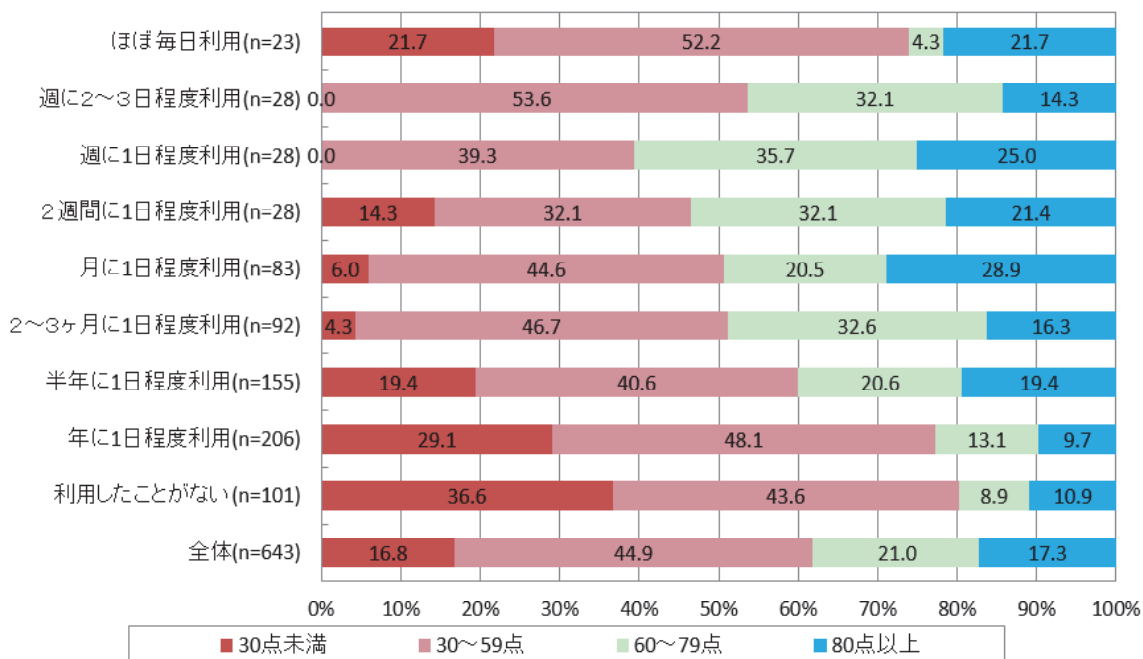


図 15. JR 桜井線の満足度

・JR 桜井線の満足度を高めるための要改善事項を自由記述形式で尋ねた結果を表 7 に整理する。運行本数の増加を指摘する人が 538 人に上っており、平成 25 年 9 月の調査（615 人）から引き続き要改善事項の 1 位である。次いで駅のバリアフリー化や設備の改善、近鉄や他路線との乗り継ぎ改善、車両の改善や乗り心地の改善の順となっている。

表 1. JR 桜井線に対する主な改善要望

改善すべき内容	改善の必要性を指摘した人数
増便	538
駅のバリアフリー化や設備の改善	90
近鉄や JR 他路線との乗継改善	62
車両改善・乗り心地（揺れ）対策	60
終電時刻の繰下げ	34
駅の有人化	15
運賃が高い	12
その他（運休や遅延頻度の改善、美化、マナー等）	113

(8) 近鉄天理線の利用状況と満足度

・近鉄天理線の利用状況は、「2～3ヶ月に1日程度利用」「半年に1日程度利用」「月に1日程度利用」「年に1日程度利用」がそれぞれ10数%を占めている。この傾向は平成25年9月の調査結果とおおむね同様である。「週に1日程度」以上利用する人は16%程度で、「利用したことがない」人は約10%である。

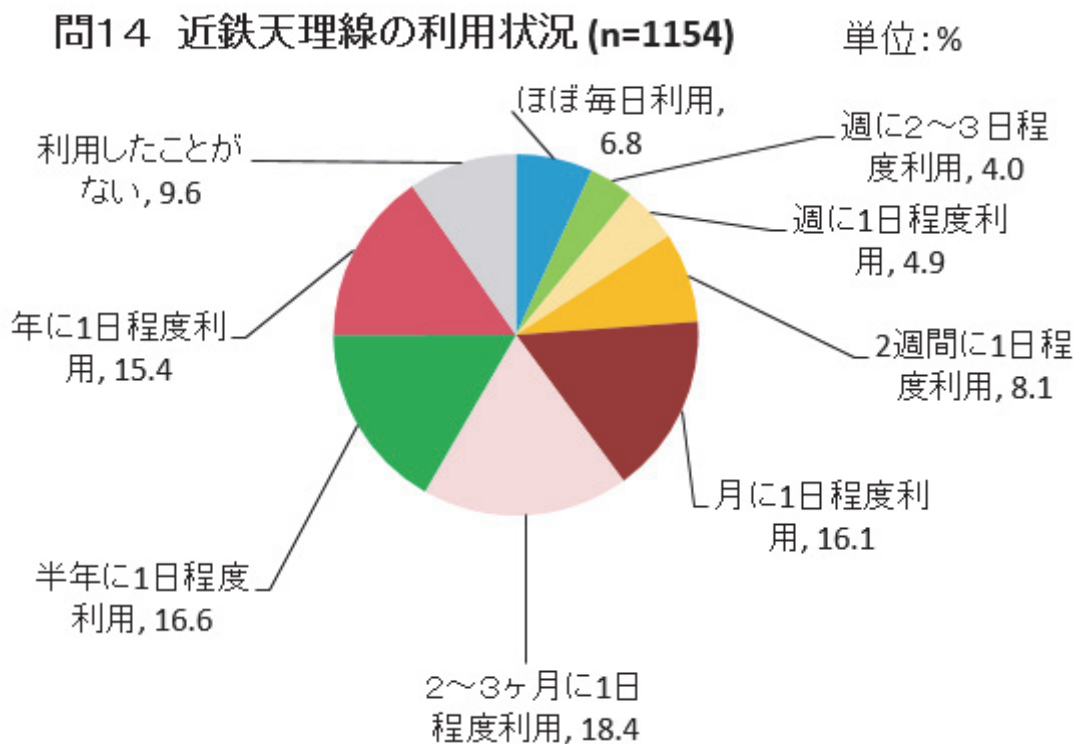


図 16. 近鉄天理線の利用状況

・近鉄天理線に対する満足度を見ると、利用頻度に関わらず、おおむね一定の高い満足度を得ているが、「利用したことがない」人の満足度は低い。この傾向は平成 25 年 9 月の調査結果とおおむね同様である。回答者全体のうち 60 点以上をつけた人の割合は 70.0 %で、平成 25 年 9 月調査の 75 %に比べ、若干低下している。

問15 現状の近鉄天理線の満足度

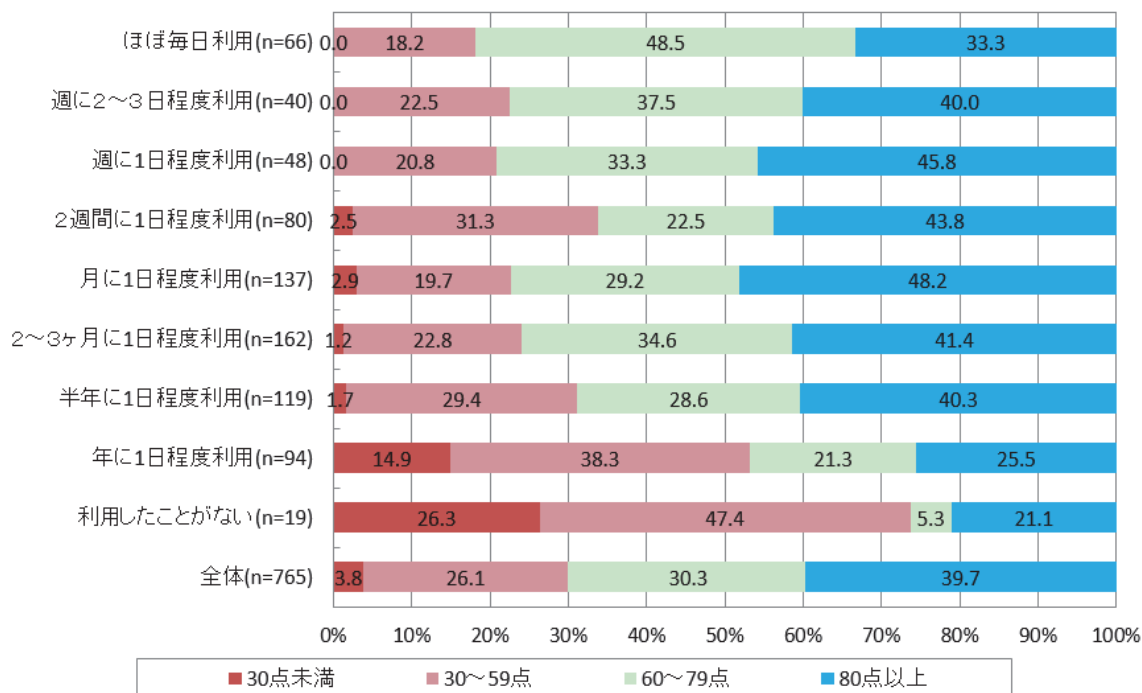


図 17. 近鉄天理線の満足度

・近鉄天理線の満足度を高めるための要改善事項を自由記述形式で尋ねた結果を表 8 に整理する。橿原線直通の増加を指摘する人が 389 人で最も多く、平成 25 年 9 月調査 (385 人) に引き続き要改善事項の 1 位となっている。次いで、増便を望む人が 108 人、駅のバリアフリー化や設備の改善を望む人が 96 人、JR との乗り継ぎ改善を求める人が 46 人の順となっている。

表 2. 近鉄天理線に対する主な改善提案

改善すべき内容	改善の必要性を指摘した人数
橿原線直通の増加	389
増便	108
駅のバリアフリー化や設備の改善	96
JR との乗継改善	46
運賃が高い	19
車両改善	11
終電時刻の繰下げ	7
駅員の常時配置	9
その他 (情報提供面、混雑、定時性等)	143

(9) 市内の路線バスの利用状況と満足度

・市内の路線バスの利用状況は、「利用したことがない」が約71%を占め、次いで「年に1日程度利用」が約14%、「半年に1日程度利用」が約5%の順である。「週に1日程度」以上利用する人は2%程度である。この結果は平成25年9月の調査結果と同じである。

問16 市内の路線バスの利用状況 (n=1146) 単位:%

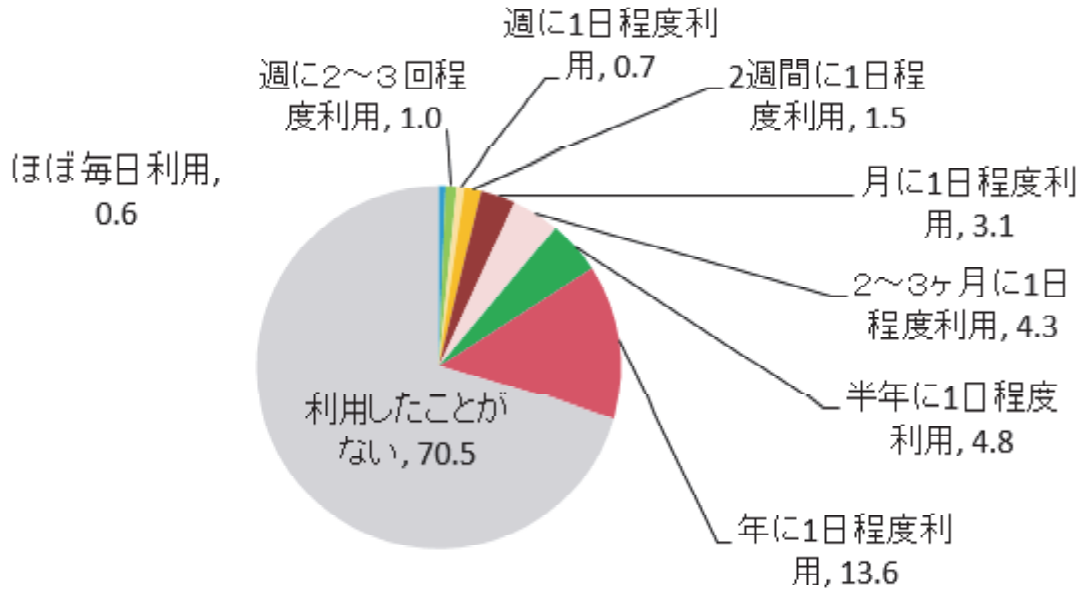


図 18. 市内の路線バスの利用状況

・市内の路線バスの満足度を見ると、利用頻度の低さと満足度の低さが連動している。回答者全体のうち60点以上をつけた人の割合は21.8%であり、平成25年9月の調査結果(25%)に比べ、若干低下している。
 ・「利用したことがない」人の満足度は、30点未満が約91.6% (平成25年9月の調査では90%) となっている。

問17 市内の路線バスの満足度

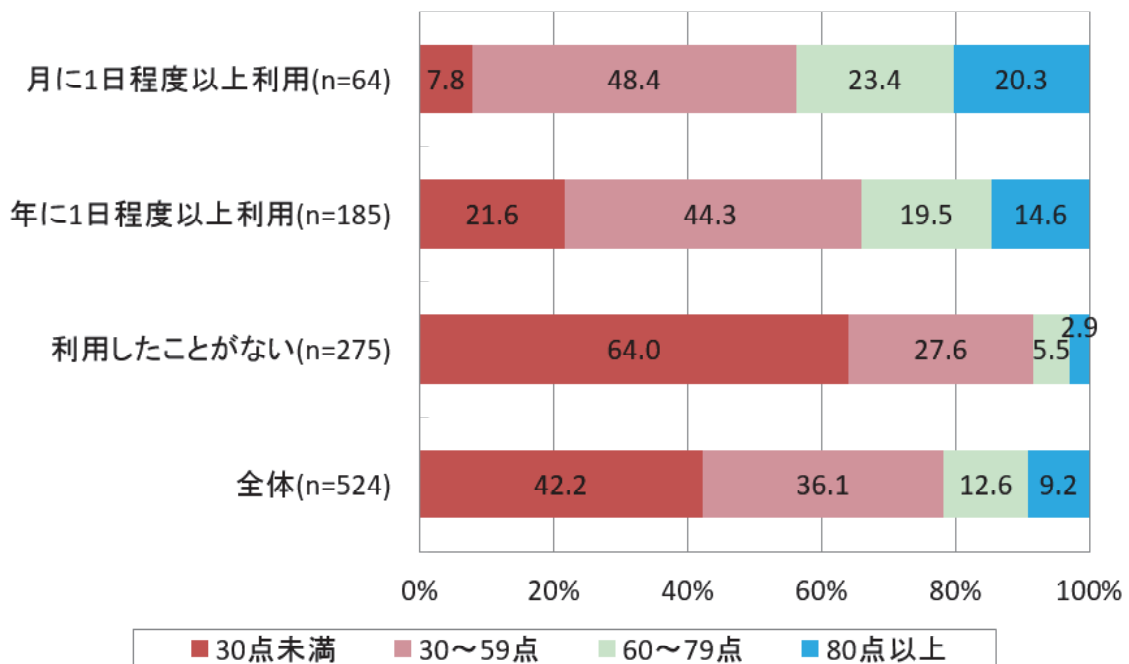


図 19. 市内の路線バスの満足度

・路線バスの利用において困っていることを尋ねたところ、「自宅の近くにバス停がない」が 404 人で最多となり、次いで「運行本数が少ない」「料金が低い」の順となった。この結果も平成 25 年 9 月の結果とおおむね同様である。

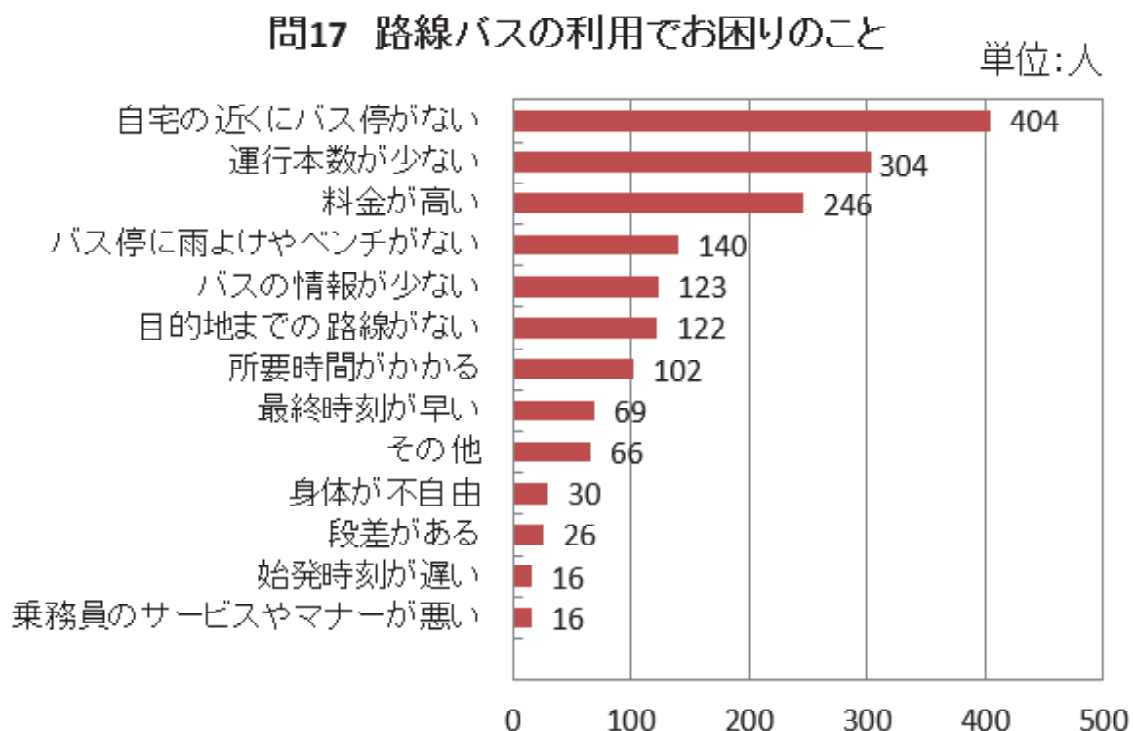


図 20. 市内の路線バス利用で困ること

・市内の路線バスの満足度を高めるための要改善事項を自由記述形式で尋ねた結果を表 9 に整理する。バス停の遠さをする人が 25 人（平成 25 年 9 月の調査でも 32 人で 1 位）、本数の少なさを指摘する人が 19 人、PR や広報の不足を指摘する人が 14 人の順である。

表 3. 市内の路線バスに対する主な改善提案

改善すべき内容	改善の必要性を指摘した人数
バス停が遠い	25
本数が少ない	19
PR や広報の不足	14
定時性がない	9
目的地への路線がない	16
運賃が高い	8
車両の改善	8
運転手の態度やマナーが良くない	4
その他	26

・路線バスに対し、年に1度以上ご利用になっている方のうち、59点以下の評価をつけた方から、表4のような意見が寄せられた。

表4. 路線バスを59点以下と評価した利用者の意見

住所	年齢	ご意見	点数	ご意見の要点						
				バス 停が 遠い	本 数 が 少 ない	目的地へ の路線が ない	PR 不足	定 時 性	他の 意見	わから ない等
石上町	20代	朝、天理発の近鉄電車（7：55）に調度良い時刻のバスが欲しい。	30～59点		○					
田井庄町	20代	行き先のかんばんが小さくてみづらい、わかりにくい。	30～59点						○	
勾田町	30代	電車の時刻とのつながが悪い。	30～59点						○	
三昧田町	40代	乗る機会も少なくなって、時間、本数が少なくあまり利用しないため	30～59点		○					
長柄町	40代	長柄～田原本の路線を作ってほしい。	30～59点			○				
指柳町	50代	どれに乗ったらいいのか、よくわからない	30～59点				○			
田部	50代	最近はあまり利用しないが、昔の奈良交通のバスの今でも運転手は、マナーも態度も口のきき方も悪い人が多かった。そのイメージが強い	30～59点						○	
萱生町	60代	バス停まで遠い、坂がある、時間にしばられる	30～59点	○	○					
岸田町	60代	バスの回数が非常に少ない。JR、近鉄、バスの三社の乗り継ぎの工夫	30～59点		○				○	
三島	60代	小さいバスでもよいからトラムのような市内循環があれば	30～59点			○				
川原城町	60代	関西空港へ行く時、天理駅にバス停がない	30～59点			○				
蔵之庄町	60代	近鉄奈良→森本以遠が少なすぎる（下山止が多すぎる、→天理迄引張れ）白土回送を営業運転へ希望する	30～59点		○	○				
丹波市町	60代	鉄道との連携がない	30～59点						○	
成願寺町	70代	時刻通りに運行しない	30～59点					○		
西井戸堂町	70代	路線バスが少ない	30～59点		○					
川原城町	70代	アナウンスの声が何を言っているのかわからない。	30～59点						○	
二階堂上ノ庄	70代	二階堂上ノ庄町から天理駅に至るバス路線がない	30～59点			○				

町									
柳本町	70代	本数が少ない。走る道路順も考えてほしい。	30～59点		○				○
櫛本町	80代	その時間にこない時があまり天理駅から近鉄ものりたいたのでまにあうように	30～59点					○	
杉本町	10代	料金が高すぎる	30点未満						○
杣之内町	10代	障害者の人達への対応が悪い。この前は、車いすの子ども達に対して、階段なのに「早く降りて下さい。」と言っていた。じゃあ、手伝って下さいよ。お願いします。	30点未満						○
乙木町	30代	乗った時、一緒にお年寄のおばあさんが居て、座ってないのに急発進！！おばあさんひめいをあげ、こけかけたのに「ちゃんと座って下さいよ」と言う運転手。車内のかがみは、何のためについてる？「大丈夫」？はないの？ありえへん	30点未満						○
田町	30代	終電までは走っていてほしい。乗り継ぎ割引がほしい（すでにありますか？）	30点未満		○				○
中町	40代	（使用時の際）時間通りにまったく発着しなかった	30点未満					○	
櫛本町	40代	あまり使わないので分からない	30点未満						○
指柳町	50代	奈良交通バスはどんどん路線や本数を削減され、乗る便がなくなってしまった。（コミュニティバスも指柳町近辺は通らない。）	30点未満		○	○			
東井戸堂町	50代	高齢になって自分で運転できなくなると困ると考えています。	30点未満						○
富堂町	50代	時間が読めない	30点未満					○	
平等坊町	50代	平等坊町方面運行していない。	30点未満	○					
蔵之庄町	60代	乗用車があるから、しかし乗用車乗れなくなったら利用したい。	30点未満						○
櫛本町	60代	自家車があるためバスに必要性を感じない。	30点未満						○
下仁興町	70代	バス停まであるいて行くのが遠い	30点未満	○					
三島町	70代	回数が少ないのと料金が高いが、目的に近い処で降りるのでたまに使う。	30点未満		○				○
蔵之庄町	70代	車に乗れなくなれば、不便を感じます。今の所、自分で車を使うので余り必要性はない。	30点未満						○
富堂町	70代	昔は天理駅から25号線、24号線があったが、今は無いので利用はしてない、昔は利	30点未満	○					

		用してましたよ。								
豊井町	70 代	1日の本数が少ない	30点 未満		○					
豊田町	70 代	バスが通っていない	30点 未満	○						
柳本町	70 代	料金は支払い側が高いと感じるがバス会社は努力しておられると思う	30点 未満						○	
櫛本町	70 代	奈良市のように、100円にしてほしい（高令者）市長市会議員の給料を半減して！！	30点 未満						○	
遠田町	80 代	近くをバスがないので利用した事がない	30点 未満	○						
川原城町	80 代	利用者の少ない所は小型のバスでも良いから出来るだ多方面にて運行してほしい	30点 未満			○				

(10) コミュニティバス「いちよう号」の利用状況と満足度
 ・いちよう号の利用状況は、「利用したことがない」が約94%を占める。「週に1日程度」以上利用する人は1%程度である。この結果は平成25年9月の調査結果とほぼ同じである。

問19 いちよう号の利用状況 (n=1156) 単位:%

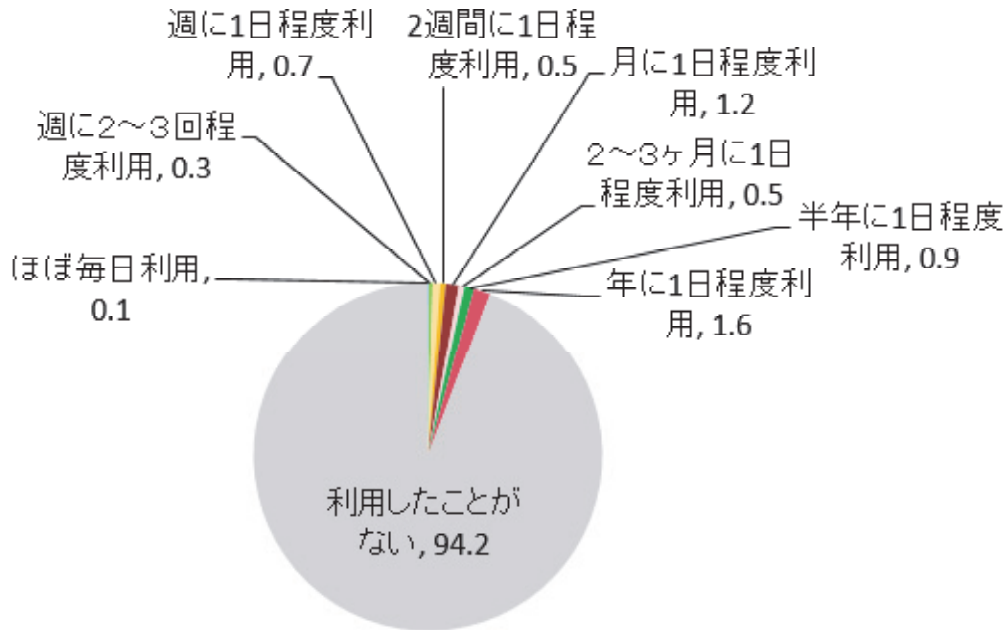


図 21. いちよう号の利用状況

・いちよう号の満足度を見ると、利用頻度の高さと満足度の高さが連動している。回答者全体のうち60点以上をつけた人の割合は16.7%であり、平成25年9月の調査結果(15%)から横ばいないしやや上昇している。
 ・月に1日程度以上利用する人の満足度は、60点以上が76.2%であり、平成25年9月の調査結果(57%)に比べて向上している。

問20 いちよう号の満足度

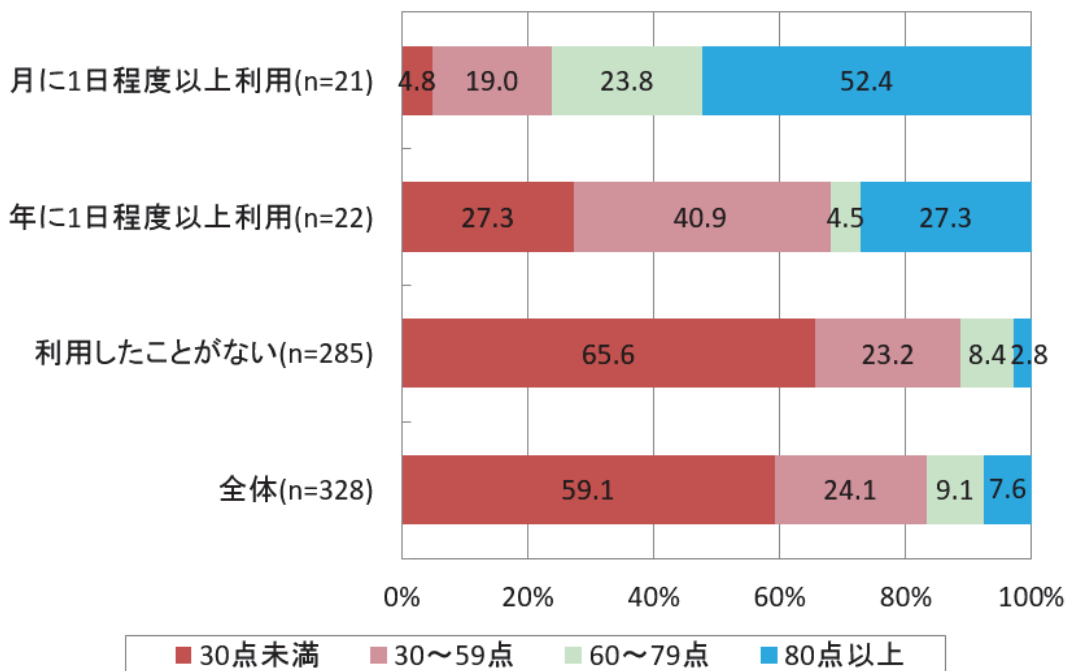


図 22. いちよう号の満足度

・いちょう号の利用において困っていることを尋ねたところ、「自宅の近くにバス停がない」「バスの情報が少ない」「運行本数が少ない」「目的地までの路線がない」の順となった。平成 25 年 9 月の調査結果に比べて、「自宅の近くにバス停がない」（平成 25 年調査では「バス停が遠い」と感じる方が大きく増えている。

・「西部線が土日祝に運行していない」を挙げる人は 36 人で、平成 25 年調査より半減している。

問20 いちょう号の利用でお困りのこと 単位:人

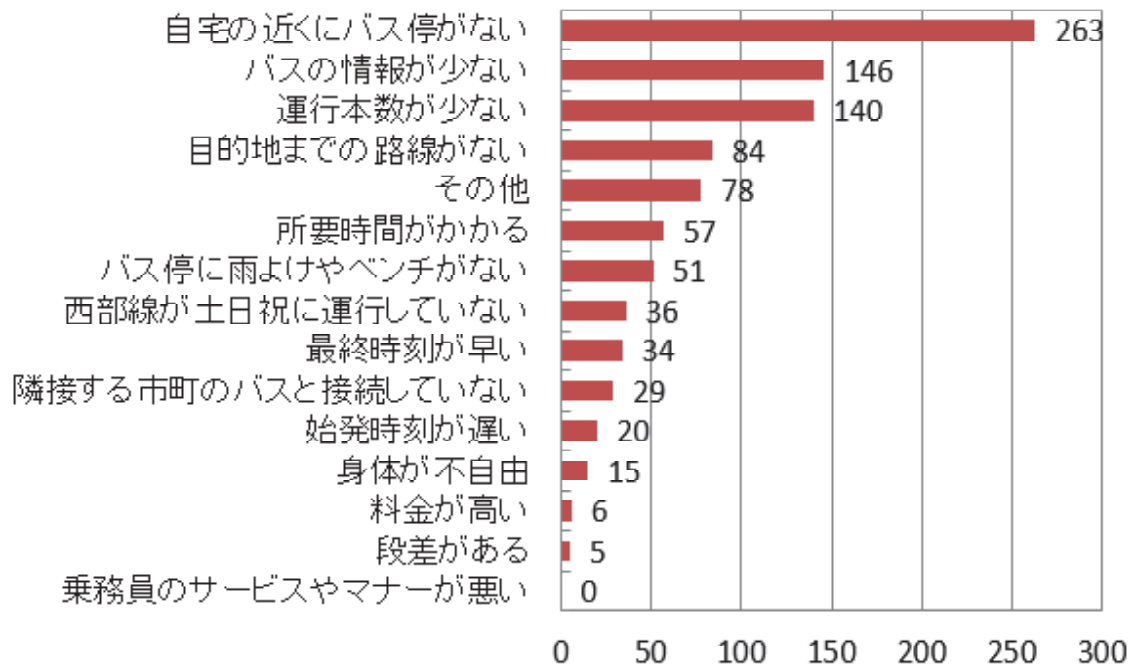
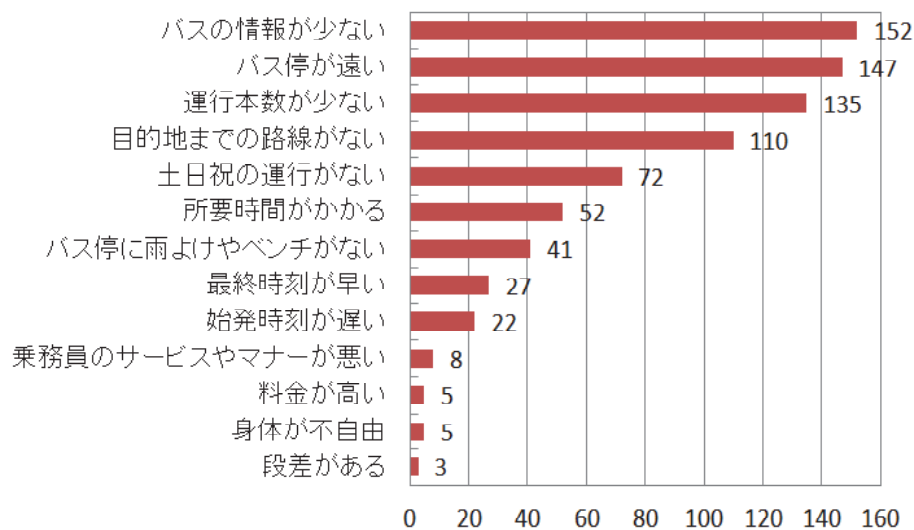


図 23. いちょう号の利用で困ること

問20 いちょう号の利用でお困りのこと 単位:人



参考図. 平成 25 年 9 月調査の結果

・いちょう号の満足度を高めるための要改善事項を自由記述形式で尋ねた結果を表 10 に整理する。PR や広報の不足を指摘する人が 50 人（平成 25 年 9 月調査では 73 人）で最も多く、次いで運行ルート of 改善（〇〇には走っていない等）が 45 人（平成 25 年 9 月調査では 21 人）の順である。

表 5. いちょう号に対する主な意見

内容	指摘した人数
PR や広報の不足	50
運行ルートの改善	46
感謝・評価・将来は利用	15
増便	5
ダイヤの改善（土日祝日の運行を含む）	4
否定的な意見（廃止等）	4
積み残しがある	1
その他（乗りづらい雰囲気がある等）	26

・いちょう号に対し、多数のご意見が寄せられた。ここでは、いちょう号を年に1度以上ご利用になっている方のご意見に絞って掲載する。否定的な意見はないが、30点未満をつけた方が8人、30～59点をつけた方が1人いる。

表 6. いちょう号に関する利用者の意見

住所	年齢	ご意見	点数	ご意見の要点							
				運行 ルート 改善	PR や 広報 不足	便利・感 謝・将来 は利用	増 便	積 残 し	ダ イ ヤ	そ の 他	
袖之内町	10代	障害者の人達への対応が悪い。	30点 未満								○
櫛本町	40代	櫛本方面の運行が無いのはなぜ？	30点 未満	○							
櫛本町	40代	櫛本町の住宅（天理団地）高齢者が多いので お願いします	30点 未満	○							
荒蒔町	50代	乗してやっているの態度、運行中の運転手の マナー	30点 未満								○
西長柄町	60代	外回りクリーンセンター前にバス停必要	30点 未満	○							
嘉幡町	70代	バス停まで10分以上かかる	30点 未満	○							
西井戸堂 町	70代	買物荷物の持ち帰りが大変	30点 未満								○
平等坊町	70代	ターミナル迂回わざわざ行かなければならない ので利用したいけど出来ない	30点 未満	○							
東井戸堂 町	30代	乗りたいが時間が合わない	30～ 59点							○	
長柄町	40代	田原本行きを作ってくてほしい。	60～ 79点	○							
田町	40代	天理教の行事の日は満席で乗れない	80点 以上					○			
平等坊町	60代	1時間に1本あるとありがたいです。でも大 変便利に利用させてもらってます。	80点 以上				○				
稲葉町	70代	年々、老年化で、免許返上が多くなるので、 回数が多ければ利用も増える	80点 以上			○	○				
勾田町	70代	土日祝も運行してほしい。勾田町にバス停が ないので作ってほしい。	80点 以上	○						○	
東井戸堂 町	70代	いまのままで十分です。	80点 以上			○					
川原城町	80代	細かい車よりとにかく多くの方面に運行して ほしい。	80点 以上	○							
豊井町	80代	助かってます	(未記 入)			○					

(11) デマンド型乗合タクシー「ぎんなん号」の利用状況と満足度
 ・ぎんなん号の利用状況は、「利用したことがない」が 98 %を占め、平成 25 年 9 月の調査結果（96 %）とほぼ同じである。

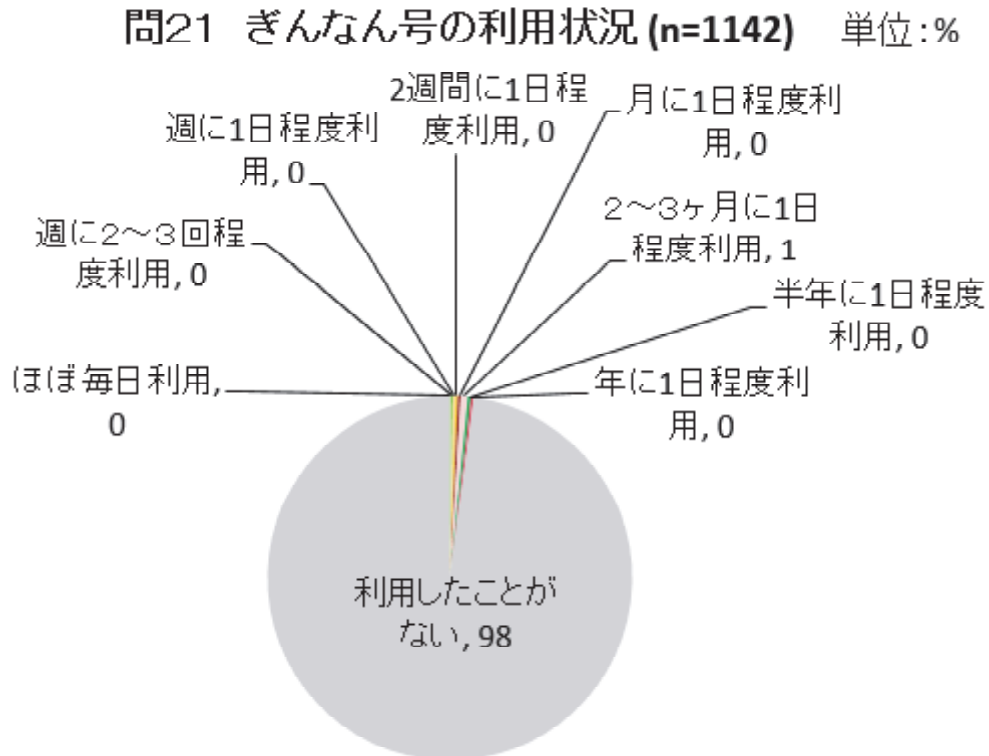


図 24. ぎんなん号の利用状況

・ぎんなん号の満足度を見ると、回答者全体のうち 60 点以上をつけた人の割合は 13.7 %である。平成 25 年 9 月の調査結果では 9 %であったことから、向上している。
 ・「利用したことがある」人の満足度は、60 点以上が 63.7 %であり、平成 25 年 9 月の調査結果（50 %）と比べて向上している。

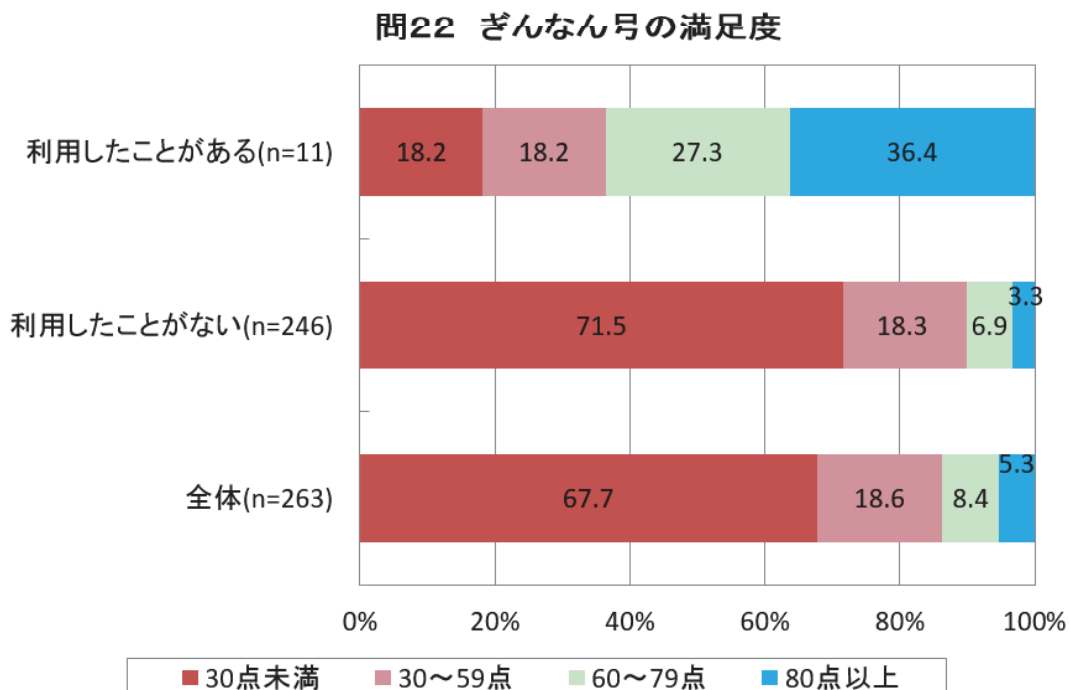


図 25. ぎんなん号の満足度

・ぎんなん号の利用において困っていることを尋ねたところ、「ぎんなん号の情報が少ない」「自宅の近くに乗降所がない」との回答が圧倒的に多い結果となった。

サービス開始後しばらくして、不公平感が生まれている可能性がある。

ぎんなん号の利用でお困りのこと

単位:人

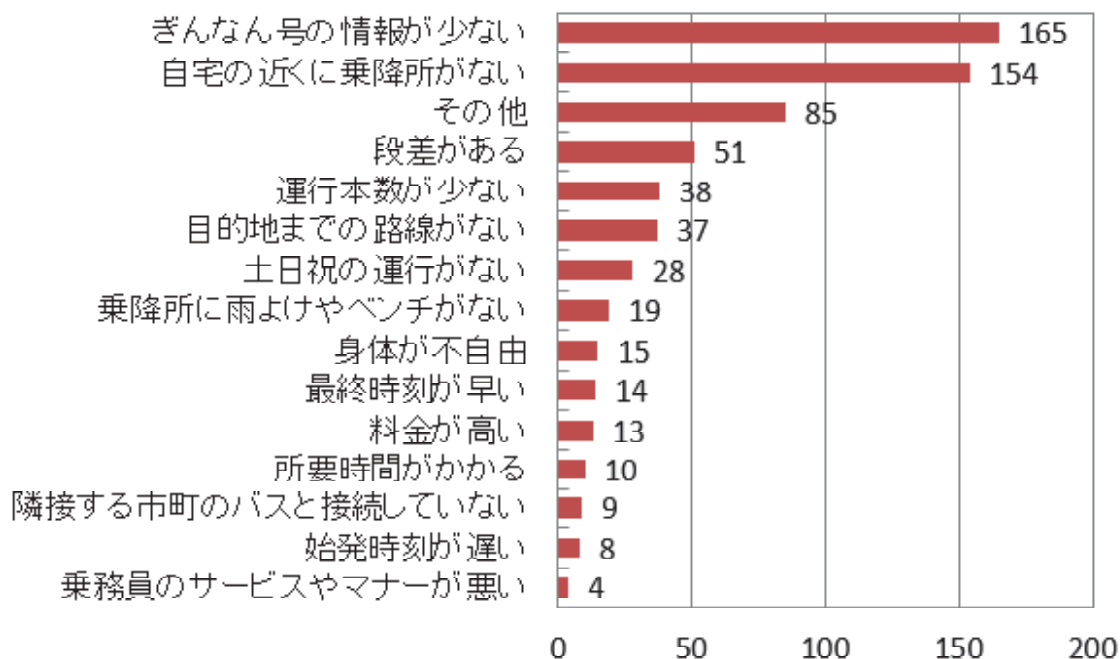
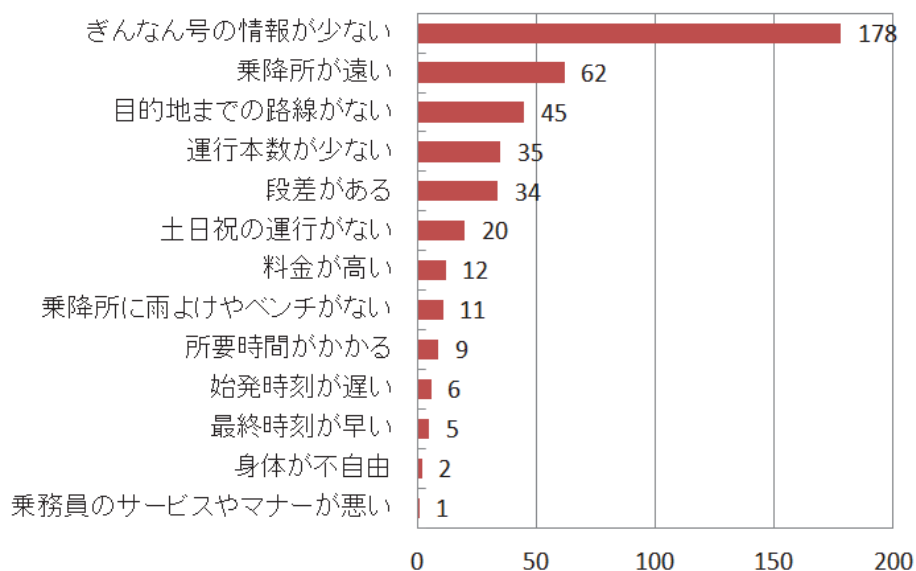


図 26. ぎんなん号の利用で困ること

ぎんなん号の利用でお困りのこと

単位:人



参考図. 平成 25 年 9 月の調査結果

・ぎんなん号の満足度を高めるための要改善事項を自由記述形式で尋ねた結果を表7に整理する。PR や広報の不足を指摘する人が 85 人で最も多く、次いで感謝・便利・将来は利用するという人が 17 人、運行ルートの改善（〇〇には走っていない等）が 10 人の順である。

表 7. ぎんなん号に対する主な意見

内容	指摘した人数
PR や広報の不足	85
感謝・評価・将来は利用	17
運行ルートの改善	10
否定的な意見（廃止、必要ない等）	8
増便	3
積み残しがある	0
その他（予約が必要ですぐには利用できない等）	13

・ぎんなん号に対し、多数の意見が寄せられた。ここでは、ぎんなん号の停留所が存在する町丁にお住まいの方と、ぎんなん号を年に1日以上利用する方のご意見に絞って、その要点を整理する。なお、「乗ったことがない」「わからない」とのご意見については掲載を省略する。

表 8. ぎんなん号に関する沿線住民および利用者の意見

住所	年齢	利用の有無	ご意見	点数	ご意見の要点					
					感謝・将来利用	経路の改善	PRや広報の不足	増便	否定的な意見	その他
荒蒔町	10代	無	急に乗合タクシーに乗りたくなくても、予約が必要なので、すぐに利用できないこと。	30点未満						○
乙木町	20代	無	ぎんなん号の存在を知らなかった。	30点未満			○			
中町	20代	無	自宅近くのバス停の場所を知らない。走っているのを見たことがない。	30点未満			○			
田井庄町	20代	無	そもそも乗合タクシーを知らない	80点以上			○			
南六条町	20代	無	利用したことも在る事も知らない	30点未満			○			
別所町	20代	無	乗合タクシーの存在を知りませんでした。	30点未満			○			
櫛本町	20代	無	このアンケートで初めて知りました。	30点未満			○			
中町	30代	無	使う必要性がない、初めて知った。	30～59点			○		○	
庵治町	40代	無	利用した事がなく、どうすれば利用できるのか知らないので…	30点未満			○			
庵治町	40代	無	知らなかった。	30点未満			○			
庵治町	40代	無	ぎんなん号を知らない。	30点未満			○			
小路町	40代	無	ぎんなん号の存在を知りません	30点未満			○			
川原城町	40代	無	※必要がない 自家用車で十分である	30点未満					○	
中町	40代	無	居住地域に乗合タクシーがこないため利用できないため	30点未満		○				
中町	40代	無	ぎんなん号のことを知らなかった。	30点未満			○			
田井庄町	40代	無	存在を初めて知った。知名度をあげるべき	30点未満			○			
東井戸堂町	40代	無	いちょう号と同じく、存在を知らないなので、ご周知いただけたら幸いです。	30点未満			○			
東井戸堂	40代	無	存在すら知らない	30点			○			

町				未満						
富堂町	40代	無	はじめて知りました。	30点未満			○			
富堂町	40代	無	システムがよく分からない。	80点以上			○			
櫛本町	40代	無	ぎんなん号の存在を知らない	80点以上			○			
富堂町	50代	無	ぎんなん号があまり良くわからない	30点未満			○			
庵治町	50代	無	ぎんなん号なる乗り物はまったく知りません！	30点未満			○			
乙木町	50代	無	ぎんなん号の詳細を知らない。	80点以上			○			
中町	50代	無	分からない 広報をくわしく、各家庭に何度も、年に10回以上	30点未満			○			
藤井町	50代	無	母が通院などで利用したかったのですが目的地に行けないので利用出来ませんでした。	30～59点		○				
富堂町	50代	無	知らなかった。	30点未満			○			
福住町	50代	無	車を持っているので利用の機会がないが運転できない時とかはとても助かると思います	80点以上	○					
杣之内町	50代	無	乗合タクシーがあることすら知らなかった。	30点未満			○			
櫛本町	50代	無	利用の仕方がわかりません	30点未満			○			
園原町	60代	無	いずれ、乗りたいと思うのですが、行き先がためだと、のっている人に聞く	30点未満	○	○				
小路町	60代	無	利用の仕方が判らない	30点未満			○			
小路町	60代	無	必要ない情報が少ない	30点未満			○		○	
川原城町	60代	無	ぎんなん号の情報がまったくなかったです。	30点未満			○			
蔵之庄町	60代	無	市北部利用の新設を希む	30点未満		○				
竹之内町	60代	無	乗る人の降りたい所で降してほしい	30～59点		○				
田井庄町	60代	無	マイカー利用で現在利用していない。しかし高齢を迎え今後大いに利用することになると思います。更なる充実を希望します。	30点未満	○					
桧垣町	60代	無	上記同様プラス市中心部の発想であり北部南部にサービス格差がある	30点未満		○				
富堂町	60代	無	ぎんなんの存在を知らなかった。	30点未満			○			

杣之内町	60代	無	今はまだ利用しないですんでいるがいずれ利用しないといけなくなると思う	30点未満	○						
櫛本町	60代	無	櫛本は走っていないように思う	30点未満		○					
櫛本町	60代	無	利用方法がわからない。高齢者のみが利用するものでは??	30点未満			○				
庵治町	70代	無	将来利用者が増えると思われるが、定員4人では不足することが予想される。	60～79点	○						
荒蒔町	70代	無	路線がないので利用できません	30点未満		○					
蔵之庄町	70代	無	ぎんなん号の存在を知りませんでした。(自分の不勉強?)	30点未満			○				
田井庄町	70代	有	天理駅までもう少し増やしほしい。	30点未満				○			
東井戸堂町	70代	無	情報が乏しい、申し込み方法連絡先、条件の有無など	30点未満			○				
庵治町	80代	無	自宅近くに路線がないのですごく不便です	30点未満		○					
西井戸堂町	70代	有	内回り第5便天理駅16:20分、乗り自宅西井戸堂町466-7ですが富堂西で下車すればよかったのですが17時:08分下車しました一時間12分もかゝりました。	30～59点							○
川原城町	80代	有	No3.や5について(調査担当者注:乗降所に雨除けやベンチがなく、所要時間もかかるが、の意)は悪くてもとにかく利用できる車が大変ありがたいです。	80点以上	○						
櫛本町	80代	有	乗務員により良い人と気になる人もいます。1時間に1回にさせていただいたほうがいいと思います。	60～79点					○		○

・アンケート調査票に加えて、お手紙を下された方がいる。その要点は次の通りである。

1人暮らしをしています。
現在の私にとって自動車は欠かせない存在です。もし乗れなくなったら、たちまち外出不能になることでしょう。
現在運行されている、奈良交通やいちょう号は見る限り、利用者は殆ど見られません。「行きたい時に、行きたい場所に」がかなわないらしいです。「タクシーが低料金で利用出来たら」。と言う声が聞こえます。「老人限定で」制度化されるのを期待します。
(滝本町、80歳代)

解答出来ずに申し訳ありません
私は家族とも年寄りですので駅までは遠いのでのれません
今の所何とか車で移動しています
いちょう号は私の所は通っていませんが又、出来れば近くを運行すればよいと思います
(乙木町、80歳代)

日頃の外出では、JR駅が最も近いので利用したいが、行く目的地（食品スーパーなど）はたいてい下道駅から遠く、いろんなことを考えると、どうしても車で行くことになる。70才目前で体力的にもいつまで運転できるか不安であるができる間はしたいというよりしなければならぬだろう・・・と思っている。
(柳本町、60歳代)

資料2 いちょう号西部線利用者に対する調査の結果

1. 調査の概要

(1) 調査方法

・月火水木金の各曜日から1日ずつを選んで、調査員2名が第1便の天理駅始発から第5便の天理駅終着までの全区間に乗り込み、利用客にアンケート調査票を配布して、車内または料金着払いの郵送で回収した。調査にあたっては、同一利用者からの複数回の回答がないよう注意した。

(2) 実施時期

・平成29年2月下旬～3月上旬

(3) 回収数

・92票

(4) アンケート調査票

・次ページに示す。



写真 いちょう号西部線での調査の様子



郵便はがき

640-8790

(受取人)
和歌山市栄谷930
和歌山大学経済学部
辻本研究室 行



あなたご自身のことについて
該当するものに○をするか、記入してください

性別	1. 男 2. 女
年齢	1. 10歳代以下 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳代 8. 80歳代以上
お住まい	1. 天理市 (例: 嘉幡町) 2. その他
職業	1. 会社員・公務員 2. 自営業 3. パート・アルバイト 4. 学生 5. 主婦・主夫 6. 無職 7. その他
免許保有	1. 自動車 2. 二輪車・原付 3. なし

切り取り線

アンケート調査ご協力をお願い

平素より市民のみなさまには市政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、天理市では、コミュニティバスいちょう号の近鉄結崎駅への乗り入れを次のように計画しています。

・便数、運行曜日、運賃は現行通りです。
・第1便の天理駅発時刻を30分早めます。

お手数ですが、この案に関するアンケート調査票にご記入の上、調査員にお渡しいただくか、平成29年3月13日までに投函くださいますようご協力をお願い致します。

実施機関：天理市地域公共交通活性化協議会
事務局：天理市市長公室総合政策課内
電話：0743-63-1001(代表) 内線(461)
なお、この調査の分析は、和歌山大学経済学部辻本研究室に委託して実施します。

利用者アンケート質問票

問1 今回はどのような目的でバスを利用されますか？

問2 今回の乗車バス停と降車バス停を教えてください。

問3 いちょう号の近鉄結崎駅乗り入れ案について、お考えをお聞かせください。
変更案をオレンジ色で示します。
・便数、運行曜日、運賃は現行通りです
・内回り (天理駅から) → クリーンセンター前 → 庵治団地 → 結崎駅 → 庵治町砂子 → 吉田 → (天理駅へ)。
※第1便の天理駅発時刻を30分早めます(天理駅発8時、天理駅着9時半頃)
・外回り (天理駅から) → 吉田 → 庵治団地 → 結崎駅 → 庵治町砂子 → 嘉幡北集会所付近 → 二階堂小学校付近 → 嘉幡 → (天理駅へ)

問4 現状のいちょう号について、ご不満な点がありますか？ご意見やご要望などをお書きください。

利用者アンケート回答票 日 便

※ご回答はお一人一回までに願います※

問1 (目的) 1. よろづ相談所病院への通院
2. 高槻会高井病院への通院
3. 天理市立メディカルセンターへの通院
(あてはまるものすべてに○をしてください)
4. その他の病院・医院等への通院
5. 天理本通り商店街への買い物
6. イオンタウン天理への買い物
7. プライスカット天理北店への買い物
8. その他の場所への買い物
9. 通勤・通学
10. 観光 11. 帰宅 12. その他

問2 ()で乗り ()で降車

問3 (あてはまるものに○をしてください)

買い物が便利になる	思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	思わない
通院が便利になる					
近鉄が利用しやすくなる					
川西町に行きやすくなる					
第1便の天理駅発時刻を30分早くするのは賛成					
この案を実現して欲しい					

問4 (ご意見・ご要望)

裏面の「あなたご自身のこと」もお答えください

図 27. 配布したアンケート調査票

注：実際の大きさは往復はがき大である。

2. 調査結果の概要

・ここでは、いちよう号西部線利用者調査結果の概要を整理する。

(1) 回答者のプロフィール

・性別では、男性が 18.6 %、女性が 81.4 %である。

性別

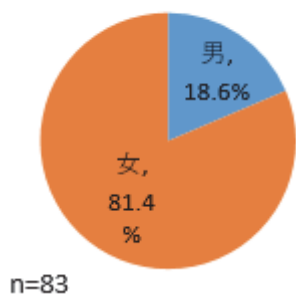


図 28. 回答者の性別

・回答者の年齢層は次の通りであり、60歳代以上が 85.6 %を占めている。

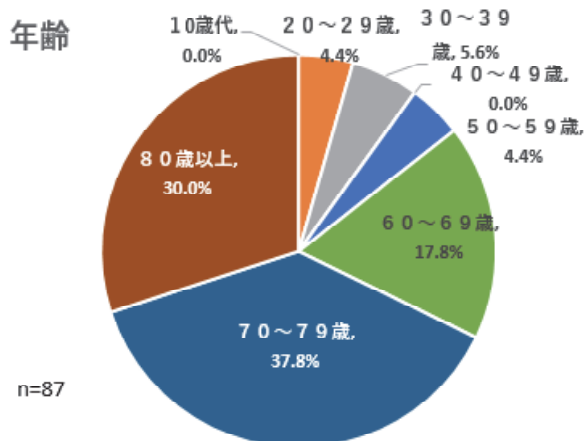


図 29. 回答者の年齢

・回答者がお住まいの小学校区は次の通りであり、いちよう号西部線の経路上にある朝和、前栽、井戸堂、丹波市の各校区の住民が大半を占めている。

表 9. 回答者のお住まいの校区

校区	人数	校区	人数	校区	人数
朝和	24	前栽	20	井戸堂	16
丹波市	14	山の辺	4	櫛本	3
二階堂	3	市外	2	無回答	7

・回答者の職業は次の通りであり、無職と主婦・主夫が 84.7 %を占めている。

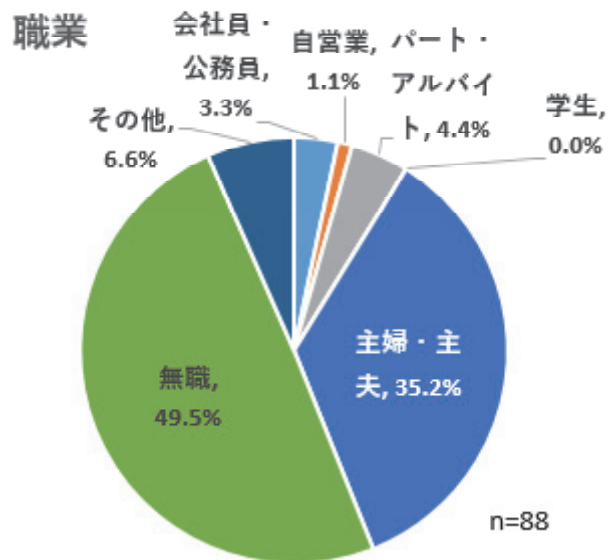


図 30. 回答者の職業

・回答者の所有免許は次の通りであり、自動車運転免許も二輪車や原付の運転免許も持たない人が 76.5 %となっている。

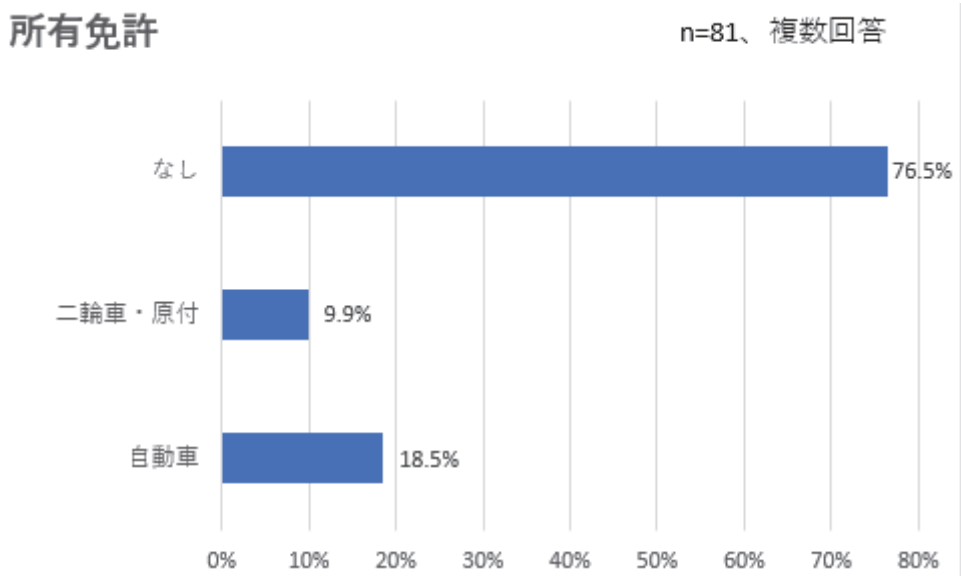


図 31. 回答者の所有免許

・回答者の利用目的は次の通りであり、イオンタウン天理への買い物目的の人が 41.6 %（回答者 86 人中の 36 人）を占めるなど、買い物目的での利用が最も多い。次いで天理市立メディカルセンターなど様々な施設への通院となっている。

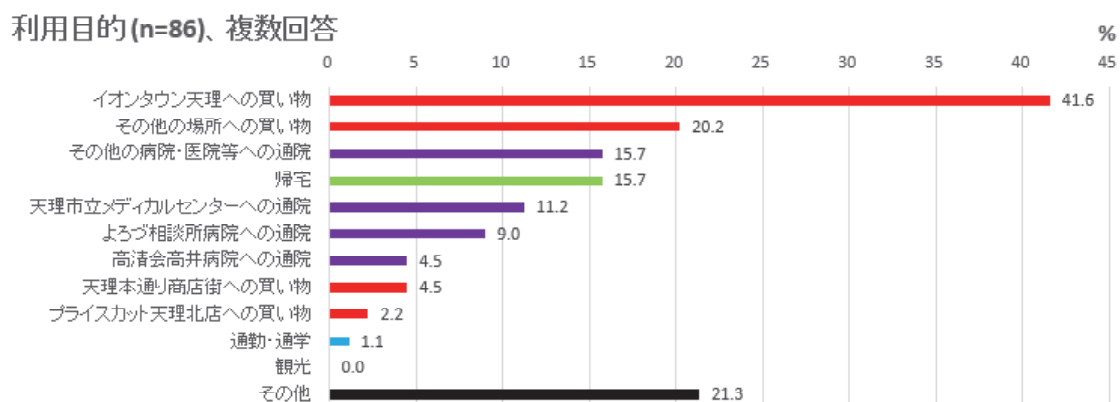


図 32. 利用目的

・回答者の乗降バス停は次の通りであり、乗降人数の多い順に天理駅、イオンタウン天理、天理市立メディカルセンター、西長柄公民館前、天理市役所となっている。

表 10. 乗降バス停

	バス停名	乗車(人)	降車(人)	乗降計(人)
1	天理駅	16	21	37
2	天理市民会館前	3	1	4
3	天理商工会館前	4	0	4
4	天理市役所	3	8	11
5	守目堂	3	4	7
6	田町東	2	3	5
7	田町西	4	5	9
8	イオンタウン天理	3	26	29
9	富堂東	3	3	6
10	田井庄・オークワ前	1	3	4
11	天理市立メディカルセンター	10	11	21
12	富堂西	2	2	4
13	西井戸堂	5	0	5
14	合場	1	0	1
15	嘉幡	0	2	2
16	クリーンセンター前	1	0	1
17	吉田	1	0	1
18	備前	3	0	3
19	長柄運動公園前	4	0	4
20	西長柄公民館前	16	0	16
21	筑紫公民館	5	0	5
22	九条	0	0	0

(2) いちょう号西部線の結崎駅への延伸案に関する感想と賛否

- ・いちょう号西部線の結崎駅への延伸案を具体的に示して、感想や賛否を尋ねた結果が次の図である。示した延伸案は図 34 の通りである。
- ・回答者の 56 %が、この案を実現して欲しいと「思う」または「やや思う」としており、「やや思わない」「思わない」の 24 %を上回っている。
- ・回答者の 56 %が、第 1 便の天理駅始発時刻を 30 分早くすることに賛成と「思う」または「やや思う」としており、「やや思わない」「思わない」の 27 %を上回っている。
- ・近鉄が利用しやすくなると「思う」「やや思う」が 58 %、買い物が便利になると「思う」「やや思う」が 50 %である一方、川西町に行きやすくなると「思う」「やや思う」は 39 %、通院が便利になると「思う」「やや思う」は 35 %にとどまる。

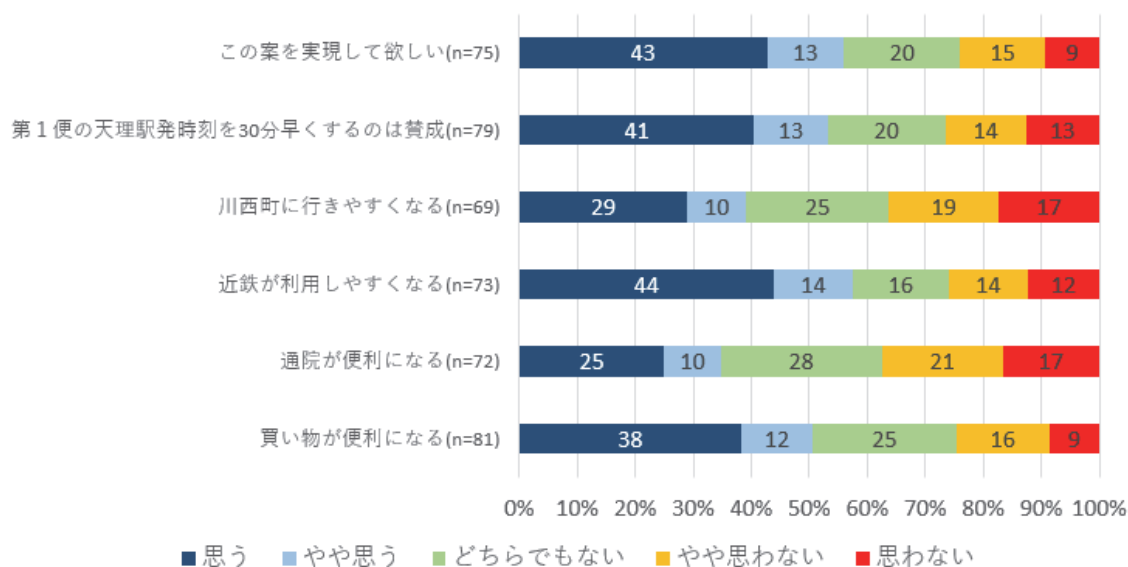


図 33. 結崎駅延伸案に対する感想や賛否



図 34. アンケートで提示した結崎駅延伸案

- ・便数、運行曜日、運賃は現行通りです。
- ・第 1 便の天理駅発時刻を 30 分早めます。

・いちょう号西部線の結崎駅への延伸案に関する賛否を利用目的別に見ると、買い物目的の利用者がこの案を実現して欲しいと「思う」または「やや思う」割合が69%に達し、「やや思わない」「思わない」は18%である。一方で、通院目的の利用者がこの案を実現して欲しいと「思う」または「やや思う」割合は58%であり、「やや思わない」「思わない」は24%である。このような結果は、結崎駅に隣接する大規模小売店舗の存在や、主な通院先の立地状況が関係しているものと推測される。

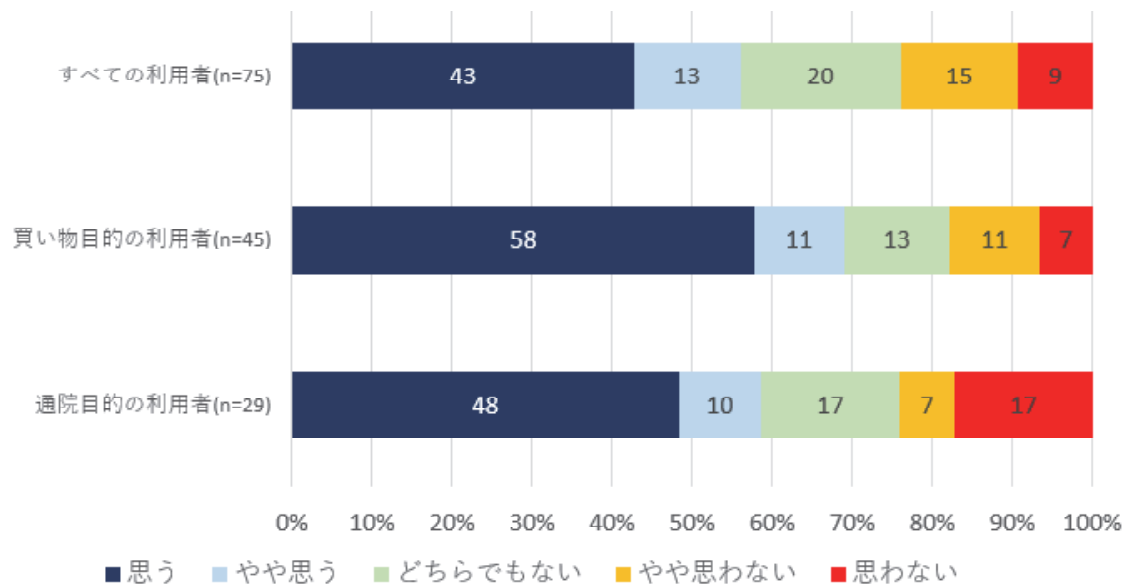


図 35. 結崎駅延伸案に対する賛否（利用目的別）

・いちょう号西部線の結崎駅への延伸案に関する賛否を乗降区間別に見ると、内回り・外回り区間にあるバス停のいずれかを乗車地点または降車地点とする利用者（内回り・外回り区間の利用者）がこの案を実現して欲しいと「思う」または「やや思う」割合が59%、「やや思わない」「思わない」が32%である。このことから、賛成意見が優勢ではあるが、結崎駅延伸による所要時間増への配慮が必要と考えられる。

・一方で、乗降地点がいずれも天理駅～富堂西間にある利用者については、「思う」が35%にとまるものの、「どちらでもない」が28%を占め、「やや思わない」「思わない」は18%と低い。この結果は、天理駅～富堂西間の利用者にとって、結崎駅延伸案の影響が見だしにくいことを反映したものと考えられる。

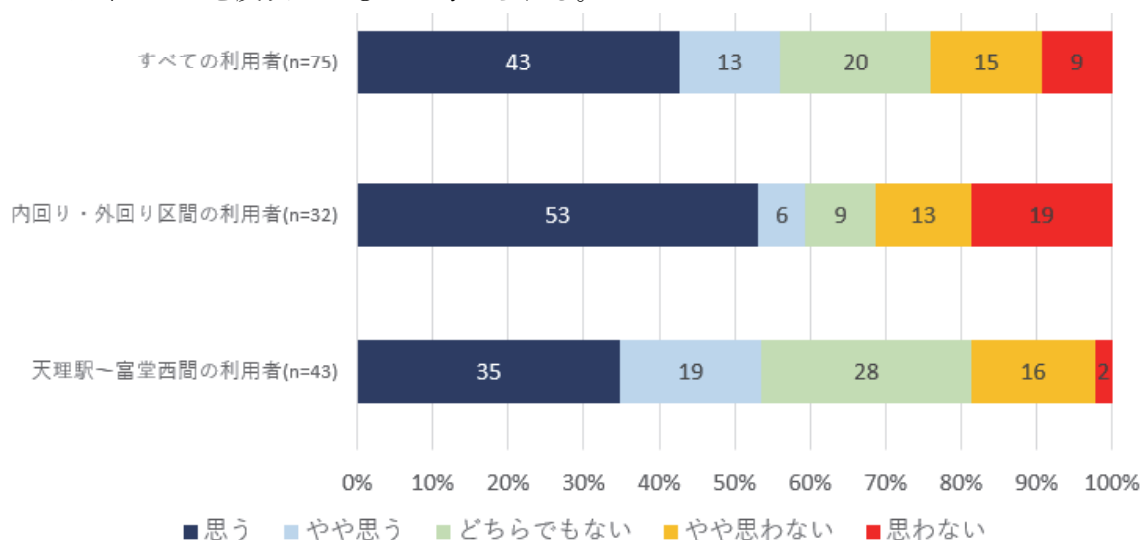


図 36. 結崎駅延伸案に対する賛否（乗降区間別）

・現状のいちょう号に対する不満等として、次のようなご意見が寄せられた。増便やダイヤ変更を求める意見が 35 件、感謝や満足を示すご意見が 34 件、運行範囲の拡大や経路の変更を求める意見が 15 件、土日祝日の運行を求める意見が 13 件、其他のご意見が 9 件となっている。

表 11. 現状のいちょう号に対する利用者の不満等意見

住所	ご意見	ご意見の要点					結崎延伸案を実現して欲しいと思うか
		感謝・評価	増便・ダイヤ変更	土日祝運行	範囲拡大・経路変更	その他	
合場町	不満ナシ。	○					思う
荒蒔町	本数を増やしてほしい。		○				やや思う
荒蒔町	本数を増やしてほしい。		○				やや思う
櫛本町	範囲が広くなるといい。				○		やや思う
櫛本町	北の方にも走って。時間が使いにくい。		○		○		やや思わない
櫛本町	本数増やして、便利。	○	○				やや思う
檀原市	バス代が王料でなく、100 円で安く、良いと思う。	○					
嘉幡町	時間がかかるからいやです。	○					思わない
川原城町	時刻が変わらない方がいい。本数が少ない。	○	○				やや思わない
川原城町	このバスは買い物に便利。結崎駅に行く人には便利だが、現時点では何とも言えない。	○					どちらでもない
川原城町	何もない。助かる。	○					どちらでもない
川原城町	奥山まで行ってほしい。イオンまで行って欲ればいい。				○		やや思わない
川原城町	帰りにくい。停留所が少ない。	○			○		やや思わない
川原城町	買い物に便利。	○					どちらでもない
九条町	土・日も運転してもらえればうれしいです。			○			思う
九条町	本数が少ない。オークワに両方向とも停めてほしい。		○		○		思わない
指柳町	なくさないで	○					—
指柳町	特になし。11（担当者注：天理市立メディカルセンターバス停のこと）はうれしい。	○					—
杉本町	土、日、祝日が走らない。回数が少ない。		○	○			やや思わない
杉本町	現在の日利用状況ではやむを得ないと思うが、出来ればもう少し増便してほしい。		○				思う
杉本町	バスが無いので、もう少しはんいを広げて欲しい。今回の案はうれしいです。本数も増やして欲しい。足が悪いのでこのバスで助かっています。	○	○		○		思う
杉本町	結崎駅の階段は？天理駅は階段がなくて助かる。郡山まで月 1 回行くことがある（通院）。買い物にも便利。	○					やや思う
杉本町	メディカルから乗ってオークワ南店は停車しますが帰りは停車しませんのでイオンで買い物をしています。	○			○		思う

田井庄町	便数をふやしてほしい。		○				やや思う
田井庄町	特に無し。バスが有ってうれしい。	○					思う
田町	オークワで買い物するが、行きは良くても帰りに丁度良い時間がない。		○				どちらでもない
田町	何も言うことない。通勤には不便では。	○					どちらでもない
田町	まんぞく。時間早く。土日にも。	○		○		○	どちらでもない
富堂町	今も便利に利用させていただいてます。欲を言わせていただくと1時間に1本あればもっと利用させていただきます。	○	○				思う
富堂町	本数が少ない。		○				どちらでもない
富堂町	本数増やして、オトギ町にも。		○		○		思う
豊井町	大学近くに乗入れて、ダイキに乗入れ、(ファミマの横)。近くは安くして。				○	○	やや思う
永原	本数。21のポール、片方にしかないのは不親切。		○			○	思う
長柄町	結崎駅に寄るのは時間がかかるので反対です。外回りもクリーンセンター前にとまって欲しい。	○			○		思わない
長柄町	バス停わかりにくい。案内わかりにくい。初めて。					○	思う
長柄町	初めて利用させてもらったのですが便利と思った。	○					どちらでもない
奈良市	延長よりも本数を増やしてほしい。助かる。	○			○		やや思わない
西井戸堂町	1時間に1本にして、こまめに出して。不便。最終早い。	○	○				思わない
西井戸堂町	土休日の便がない。			○			やや思わない
西井戸堂町	本数、ドライバーやさしい。	○	○				どちらでもない
西井戸堂町	本数・土日にも、もっと。		○	○			思う
西井戸町	本数が少ない。		○				やや思わない
西長柄町	助かってる。病院、ショッピングセンターなどへの直行便を望む。本数が少ない。	○	○		○		思う
西長柄町	最終をおそく。本数増。バス停増やす。室内地くして。		○			○	思う
西長柄町	本数増やして。便利な所にある。	○	○				どちらでもない
西長柄町	増便してほしい。		○				思う
西長柄町	便数。		○				思わない
西長柄町	本数が少ない。		○				やや思わない
西長柄町	本数が少ない。バスはありがたい。	○	○				やや思う
西長柄町	時間が長い。本数が少ない。		○			○	思う
西長柄町	車イスが止めれていい。土、休日の運行。櫃原文化会館のイベントに行けない。30分余分に行っても結崎に伸ばすメリットはあるのか。柳本やいちのもとには路線がない。結崎は天理市ではない。(川	○		○	○	○	—

	西町)					
西長柄町	本数が少ない。		○			やや思わない
西長柄町	助かる。	○				どちらでもない
西長柄町	土日も本数、回数。		○	○		どちらでもない
西長柄町	便数をふやしてほしい。		○			やや思う
西長柄町	不満なし。土か日どちらか運行希望。	○		○		思う
西長柄町	よく利用します。これからも運行していただきたい。	○				－
西長柄町	アンケートを早くすべき。土日曜日祭日の運転してほしい。			○	○	－
備前町	病院行きやすく助かる。安い。本数。結崎の南都銀行に行きやすくなる。	○	○			思う
備前町	特に不満はありません。便利で助かっています。	○				思う
平等坊町	土日も欲しい。			○		－
平等坊町	便数を増してほしい。午前、午後共に。椅子の間隔がせまいので足が痛い。		○		○	思う
平等坊町	このバスは便利	○				やや思わない
勾田町	遠回りだ。不便になりそう。また検討する。100円はありがたい。移動の足があるのはありがたい。	○				思わない
三島町	日曜日走って。帰りのバスわかんない。			○		どちらでもない
三島町	朝の便、昼からの便を1回つつふやして頂ければと思います。		○			－
三島町	イオンー天理までの分(本命)(天理駅よりイオン)行きでは時台をふやしてほしい。		○			－
吉田町	回数がもう少しほしい。土曜日でも運行してほしい。		○	○		思う
(不明)	クリーンセンターの反対にも乗り場を。バス停増やす。吉田とセンター前。				○	思う
(不明)	土日出発もほしい。			○		－
(不明)	R25 走って、路線が広がる分には良い。				○	やや思う

第3章 第2次天理市地域公共交通総合連携計画の見直し

1. 地域公共交通総合連携計画の取組課題

前章までで整理した取組状況や調査結果をふまえ、第2次天理市地域公共交通総合連携計画の後半にあたる平成29年度～30年度の取組課題を次の通りとする。

(1) 天理市コミュニティバス運行事業

- ・いちょう号の運行を継続し、引き続き利用者の増加を図り、西部線で1日あたり50人の目標達成を目指す。
- ・いちょう号について、地域住民や運行受託事業者との協働のもとで、引き続き適切な見直しとサービスの改善を図る。
- ・いちょう号西部線の土日祝日の運行の妥当性について、今回の調査結果もふまえて検討を実施する。
- ・いちょう号の隣接市町との連携について、西部線利用者調査において、結崎駅への具体的な延伸案に対する前向きな意見が反対意見を十分に上回ったことから、基本的に原案通りで結崎駅への延伸を行う。ただし、延伸による所要時間増等に対する反対意見も一定数あることに留意し、延伸実施後に影響を調査して、改善を行うものとする。
- ・隣接市町との連携について、川西町のほか、大和郡山市、奈良市、桜井市などとの連携可能性についての検討が必要である。
- ・いちょう号の付加価値を高めるための多方面での活用については、車外スピーカーでの防犯放送や有料広告の募集に加えて、さらに新たな取り組みを検討する。

(2) 天理市デマンド型乗合タクシー運行事業

- ・ぎんなん号による公共交通空白地帯の解消については、平成29年3月時点の市内における公共交通空白地帯の解消割合が96%にまで高まってきていることから、100%の目標達成を目指し、運行区域の拡大を検討する。
- ・ぎんなん号の利用促進活動について、1日あたりの利用者数が着実に上昇していることから、1日あたり20人の目標達成を目指して引き続き地域住民や運行受託事業者との協働のもとで取り組む。
- ・ぎんなん号の隣接市町との連携について、引き続き検討する。
- ・ぎんなん号の付加価値を高めるための多方面での活用について、検討を実施する。

(3) 公共交通の広報・利用促進活動

- ・広報の不足については、今回の調査でも改めて浮き彫りとなった。市の広報等を用いた在来型の広報を引き続き行うとともに、SNS、ウェブサイト等も活用した利用体験共有型の広報について、早急に検討し、実施する必要がある。
- ・市内の各交通機関が連携した広報活動や利用促進活動について、未実施であり、早急に検討し、実施する必要がある。
- ・いちょう号とぎんなん号のパンフレットは作成・配布されているものの、乗り案内や総合時刻表等の作成については未実施であり、早急に検討し、実施する必要がある。
- ・苜原系統以外でのモビリティ・マネジメントの実施を検討する。

・シンポジウム等は未実施であるので、実施する。

(4) 鉄道・路線バスの満足度向上に向けた施策展開

・鉄道利便性向上、路線バス利便性向上、鉄道・路線バスの魅力づくりについては、検討すらなされていない項目が多い。今回の「公共交通の満足度や要改善点等に関する調査結果」より、公共交通に対する市民の満足度の目標未達成が懸念される状況にあるため、鉄道・路線バスの満足度向上に向けた施策を早急に検討し、着手する必要がある。

(5) 主要駅とその周辺エリアの面的なバリアフリー化

・1日3000人以上の乗降客数を有する4つの鉄道駅とその周辺について、それぞれバリアフリー化の進捗や検討実施が確認できる。引き続きバリアフリー化の実現に向けて取り組む必要がある。

2. 事業スケジュール

第2次天理市地域公共交通総合連携計画の事業スケジュールは次の通りとし、PDCAサイクルのもと、定期的に評価・検討・見直しを行う。

表 3-1. 事業と実施スケジュール

本計画に位置づける事業	スケジュール	
	平成 29 年度	平成 30 年度
天理市コミュニティバス運行事業	運行の継続と利用促進	
	利用実態調査・分析とサービス改善の検討・実施	
	土日祝日の運行妥当性の検討	
	結崎駅延伸の実施と改善	他市町との連携可能性の検討
	多方面での活用による付加価値向上のさらなる検討と実施	
天理市デマンド型乗合タクシー運行事業	残された公共交通空白地帯の解消策の検討	解消策の実施
	地域住民や事業者との協働による利用促進活動	
	隣接市町との連携による利便性向上・経費削減の可能性の検討	
	多方面での活用による付加価値向上の検討と実施	
公共交通の広報・利用促進活動 (※未検討・未実施が多いことから、重点的に取り組む)	モビリティ・マネジメントによる意識啓発と行動転換	
	公共交通利用促進のためのシンポジウム等	
	各交通機関連携型広報や利用体験共有型広報など、各種の広報・利用促進活動	
鉄道・路線バスの満足度向上に向けた施策展開 (※未検討・未実施が多いことから、重点的に取り組む)	鉄道利便性の向上に関する協議と施策展開	
	路線バスの利便性の向上に関する協議と施策展開	
	鉄道・路線バスの魅力づくりに関する協議と施策展開	
主要駅とその周辺エリアの面的なバリアフリー化	対象となる4駅と周辺のバリアフリー化の実現	

第2次天理市地域公共交通総合連携計画の
中間評価と見直し

平成29年3月

発行者 天理市
天理市川原城町605番地

執筆協力 和歌山大学経済学部辻本研究室
和歌山市栄谷930